目　次

1 フランス革命……… p 2
2 ナポレオン……… p 5
3 ウィーン体制の成立と崩壊……… p 7
4 イタリア統一……… p 9
5 シチリア島の歴史……… p10
6 ドイツ統一……… p11
7 ビスマルク史……… p12
8 イギリス現代史……… p13
9 ユーゴスラヴィア史……… p17
10 第一次世界大戦とヴェルサイユ体制……… p18
11 第二次世界大戦への道のり……… p20
12 第二次世界大戦……… p24
13 冷戦……… p26
14 ロシア革命……… p28
15 ソ連史……… p30
16 アメリカ合衆国史（独立戦争～南北戦争）……… p33
17 アメリカ合衆国史（南北戦争～第一次世界大戦）……… p38
18 アメリカ合衆国史（戦間期）……… p41
19 戦後アメリカ合衆国史……… p45
20 戦後西ヨーロッパ史……… p50
21 フランス史（第二帝政～第五共和政）……… p51
22 東欧史……… p53
23 オセアニア史……… p57
24 メキシコ史とラテン＝アメリカ諸国史……… p58
付録：スペイン・イタリア・フランス・ドイツ地図演習etc……… p60

〈予習の方法〉

空欄に適切な語句を入れなさい。全ての下線を点検しなさい。各ページに必ず1つ下線に誤りがあります。選び出し訂正しなさい。何も見ないでトライするのが望ましいですが，諸々の教材に頼ってもかまいません。必ず予習をしましょう。

1 フランス革命

1989年のベルリンの壁崩壊と1991年ソ連邦の崩壊は，「平等」を理念として掲げた人類の歩み方の限界を明らかにした。ソ連邦を産み落としたロシア革命を第２次平等革命と見なし，そのプロトタイプ(範型)であるフランス革命を第１次平等革命と呼ぶのは妥当であろう。

フランス革命の基礎知識として，まず，❶国民議会→❷立法議会→❸国民公会→❹総裁政府→❺統領政府と覚え，❶〜❹がフランス革命，❸〜❺が第一共和政だと把握する。次いでフイヤン派が立憲君主主義派，ジロンド派とジャコバン派が共和主義派。

革命前の体制をアンシャン＝レジーム(旧体制)という。

ルイ14世以来の国家財政の窮迫，宮廷の浪費，ルイ16世が即位してすぐのアメリカ独立戦争への参加でブルボン家の国家財政は完全に破綻した。

【三部会召集と国民議会成立】 テュルゴーの自由主義的改革による財務再建，ネッケルの特権身分への課税の主張なども効を奏さず，1789年５月に174年ぶりに三部会を召集したが議決方法で対立した。６月，ミラボー，ラ＝ファイエット，『第三身分とは何か』を出版した(　1　)ら自由主義貴族(フイヤン派)に下級僧職者が加わって国民議会の成立を宣言，テニスコートで「憲法を制定するまで解散しない」と誓う。国民議会は憲法制定議会と改称した。つまりフランス革命の当初の目標は，立憲君主政体にすることだった。その証拠に国民議会が定めた三色旗(トリコロール)の真ん中の白はブルボン家の色だ。ちなみに赤と青はパリ市の色だ。

【革命勃発】 ７月14日にバスティーユ牢獄襲撃が起き，それが全国に波及，農民運動となって領主の館を襲い，租税台帳などを焼いた(大恐怖)。８月４日には封建的特権の有償廃止宣言がなされた。農奴は領主裁判権や十分の一税などの封建的身分支配からは解放され(政治的には自由)たが，地代は20〜25年分の一括前納だったので自作農にはなれなかった。８月26日には人権宣言(人間および市民の権利宣言)が採択。これはアメリカ独立宣言やホッブズの啓蒙思想の影響を受けラ＝ファイエットらが起草した17条からなるもので所有権＝私有財産の神聖不可侵，人間の自由と平等などが謳われている。十月事件＝ヴェルサイユ行進では国王一家がパリのテュイルリー宮殿に連行され議会も同時に移された。

国民議会では立憲君主主義者が優勢で，教会財産を没収してその土地を担保に

アシニア紙幣を発行，貴族の称号やギルドを廃し，同時にル＝シャプリエ法により労働者の団結を禁止した。

　1791年４月に王室と国民議会のパイプ役ミラボーが死に国王は動揺，立憲君主政の原則を無視し近隣諸国の君主国と画策し，６月にはヴァレンヌ逃亡事件が起きると，ラ＝ファイエットの友人で『コモン＝センス』の著者トマス＝ペインの主張により共和主義が台頭した。８月にはマリー＝アントワネットの兄のオーストリア皇帝がプロイセン王と共にピルニッツ宣言を出し革命に干渉，これがフランス人の愛国心を高揚させ革命戦争の誘因となった。

【立法議会】　1791年９月に1791年憲法が制定され国民議会は解散した。この憲法は一院制の立憲君主制で財産による制限選挙で，身分制の廃止，経済自由の原則が謳われている，ブルジョワ憲法でサン＝キュロットや貧農は政治から除外されていた。1791年10月立法議会が召集された。当初はラ＝ファイエット，バルナーブら立憲王政派で自由主義貴族，富裕市民のフイヤン派が主導権を握っていたが，コンドルセやロラン夫人らが中心で商工業市民が支持する穏健共和派ジロンド派が次第に主導権を掌握した。

　ブリッソーを首班とするジロンド派内閣はオーストリアに宣戦布告し，オーストリアとプロイセンが侵入し革命戦争勃発，フランスは連戦連敗，祖国の危機に義勇兵が召集され，工兵大尉ルージュ＝ド＝リールがラ＝マルセイエーズを作曲した。革命の進展に不満を持つ義勇兵と民衆がジャコバン派の指導でテュイルリー宮殿を襲撃，この1792年８月10日事件で王権が停止，立法議会は自ら解散，革命の推進力は下層階級になる。

　９月20日の（　2　）でプロイセンの職業軍人に勝利，「ここから，そしてこの日から世界史の新しい１ページが始まる」とシラーは言った。「王家」の常備軍に一般市民から徴用された「国民」軍が勝利した。国民主義，国民国家の時代（19～21世紀）の幕開けだ。

【国民公会】　９月21日，国民公会が召集，21歳以上の男子普通選挙による一院制で王政が廃止され共和政宣言，フランス第一共和国の成立である。ジャコバン派が台頭し，1793年１月にはルイ16世をジャコバン派サン＝ジュストの扇動によりコンコルド広場で人民の敵の罪状で処刑。オーストリア＝ハプスブルク領の南ネーデルラント現在のベルギーへの侵略はイギリスの小ピット首相に第１回対仏大同盟の結成を決意させる。これには墺・普・西・蘭などが参加した。徴兵制が決定すると，カトリック教徒が多くて革命に否定的な（　3　）が反乱を起こし多数が虐殺された。

【恐怖政治】 1793年６月ジャコバン派がジロンド派を追放し独裁体制に。公安委員会が政治，戦争の最高指導機関つまり事実上の政府で，保安委員会が治安，警察機関，革命裁判所で政治犯が審理された。

７月には封建的特権(貢祖)の無償廃止が宣言され，自作農が創設されたので以後農民は革命に消極的になる。８月には主権在民，人民の生活権，労働権などを定めた男子普通選挙の1793年憲法＝ジャコバン憲法が発布されたが実施はされなかった。

徴兵制が実施された。「金持ちは人民の災いである」というジャコバン派の急進派山岳党のロベスピエールは生活必需品に最高価格令を出し，革命暦が採用され，極左派のエベール派の主張で理性が崇拝されノートルダム寺院も「理性の殿堂」に変えられてしまったが，エベールの処刑に伴いロベスピエールは，「テニスコートの誓い」や後に「ナポレオンの戴冠式」を描く画家セザンヌが演出した最高存在の崇拝に切り替えて無神論ではないことを表明した。また，メートル法実施を準備(正式採用は1799年から)した。

ロベスピエールの独裁により，右派のダントン極左のエベール王妃マリー＝アントワネットやロラン夫人，バルナーブ，ラボワジェらが処刑され，コンドルセは毒をあおいで自殺した。

【テルミドールの反動→総裁政府】 1794年７月のテルミドール９日のクーデタでロベスピエールが逮捕，処刑された。背景には，公安委員会の内紛，自作農化した農民の保守化，ブルジョワジーの最高価格令への不満がある。結果として，旧ジロンド派テルミドリアン＝テルミドール派が実権を握った。

1795年，彼らブルジョワによる穏健な共和政を志向する1795年憲法＝共和国第３年憲法が成立するが，これは制限選挙，二院制，５人総裁制で中産階級のブルジョワ社会に回帰した。10月に総裁政府が成立するが，これは自由経済政策をとったので下層市民，農民が離反し，ジャコバン憲法施行を求める暴動が多発したり，ナポレオンが鎮圧した王党派の反乱や「私有財産，それは罪である」と言った共産主義者(　4　)の陰謀があったり，総裁政府は不安定であった。このようなわけで強力なリーダーシップが待望されるようになる。ナポレオンの登場だ。

山岳派とはジャコバン派最左派。国民公会の議場の高いところに席を占めたからそう呼ばれた。マラーは国民公会山岳派のリーダーでジロンド派の女性に刺殺された。エベールは山岳派極左派だったがロベスピエールと対立して処刑された。ダントンは山岳派右派でロベスピエールと対立し処刑された。

2 ナポレオン

ナポレオン＝ボナパルトはコルシカ島の貧乏貴族出身で，砲兵仕官になり革命中はジャコバン派を支持，テルミドールの反動で一時投獄された。1795年には王党派のヴァンデミエールの反乱を鎮圧し国内軍司令官に任命された。1796年にはイタリア遠征司令官として第１回イタリア遠征でオーストリア軍を撃破しカンポフォルミオの和約で第１回対仏大同盟を解体，この条約でフランスは南ネーデルラント（ベルギー）とアドリア海諸島を獲得した。

1798年イギリスのインド支配打倒を目的としたエジプト遠征のアブキール湾の戦いでネルソン率いるイギリス艦隊に敗北，この遠征の時ナイル河口でロゼッタ石の碑文が発見された。この時英，露，墺で第２回対仏大同盟（1799 ～ 1802）が結成された。この間の1799年の11月９日，ブリュメール18日のクーデタで統領政府を樹立しフランス革命に終止符を打った。

【統領政府】 統領政府はフランスの銀行資本に財政的に支援され，（　1　），ディコス，そしてナポレオンの３人の統領だったが，事実上，第一統領ナポレオンの独裁だった。第２次イタリア遠征（1800 ～ 01）でオーストリアをマレンゴの戦いで破った。リュネヴィル条約でライン左岸をオーストリアより獲得，1802年のアミアンの和約でイギリスと和約，第２回対仏大同盟を解体した。

共和国第８年の憲法で所有，平等，自由の原則を掲げ，1800年にはフランス銀行を設立した。1802年，教皇ピウス７世との宗教和約＝コンコルダートでカトリックを許可，しかし革命時の没収教会財産は返還しなかった。のちナポレオンは教皇ピウス７世をフォンテンブローに幽閉する。また同年，黒人奴隷制度が復活した。（ジャコバン派が1794年に廃止決議）

国民教育制，学校制度を近代的に整備，1804年には，フランス民法典＝ナポレオン法典を発布した。全文2281条で人身の自由，法の前の平等，私的所有権の絶対，契約の自由，良心の自由などブルジョワ市民社会の基本的権利を規定した。“余の名誉は40回に及ぶ戦勝ではない。永遠に残るのはこの民法典である”

【第一帝政】 1804年，国民投票で皇帝に就任ナポレオン１世を名乗る。皇后はジョセフィーヌ。ノートルダム寺院に教皇ピウス７世を呼びつけ戴冠させ，自ら皇后に戴冠した。その絵を描いた画家がダヴィドである。これに対して第３回対仏大同盟が結成される。1804年には「黒いジャコバン」トゥサン＝ルーベルテュールによるドミニカ革命が首都サン＝ドマングで起きたが，鎮圧されアルプスの監

獄で獄死した。

1805年の(　5　)では再びネルソンに敗れイギリス上陸作戦に失敗したが，12月2日には霧の中アウステルリッツの三帝会戦ではロシアのアレクサンドル1世とオーストリアのフランツ1世を破りヨーロッパを恐れさせ，英首相小ピットは心痛から死亡した。こうして第3回対仏大同盟が解体した。

【最盛期】 1806年には南西ドイツつまりオーストリアとプロイセンを除く全ドイツの保護者となりライン同盟を結成，1648年のウェストファリア条約で既に有名無実化していた神聖ローマ帝国が滅亡した。兄ジョセフをナポリ王のちスペイン王(1808年)，弟ルイ(後のナポレオン3世の父親)をフランス革命の影響でバタヴィア共和国となっていたオランダ王にした。イエナ・アウエルシュタットの戦いでプロイセンとロシアを破りベルリンを占領した。占領下のベルリンでフィヒテが『ドイツ国民に告ぐ』という連続講演を行いドイツのナショナリズムが高揚した。1806～07年の大陸封鎖令で対英経済封鎖とフランス資本の大陸市場独占を図ったが，これはむしろ大陸諸国にとって大打撃だった。

1807年の対ロシア，対プロイセンのティルジット条約でプロイセンの領土を半減させ，その西にボン生まれのベートーベンが生活したウェストファリア王国，東にワルシャワ大公国という傀儡政権を建設した。

1808年にスペインを征服するが半島戦争ではゲリラ(小さい戦争の意)に悩まされ，最後まで鎮圧できなかった。その時の絵がゴヤの「5月3日の処刑」だ。プラド美術館(マドリード)蔵。

プロイセンでも国政改革が進んだ。シュタインの農奴解放，都市自治，それを受け継いだハルデンベルクの農民への土地授与，中央政府機構の整備などの改革，シャルンホルスト，グナイゼナウの国民軍の創設などの軍政改革，フンボルトの教育改革とベルリン大学の創設(1811)などがそれである。ベルリン大学の初代の総長がフィヒテ。のちに世界史を「絶対精神実現のプロセスだ」と単線的な進歩史観で定義した演繹法のヘーゲルも教壇に立った。

ナポレオンは1810年オーストリアの皇女マリ＝ルイーズと結婚した。

【斜陽期】 大陸封鎖令に違反した懲罰として始まったロシア遠征ではボロジノの戦いののちモスクワを占領したが，ロシアのクトゥーゾフ将軍の焦土戦術の前に失敗，1813年第4回対仏大同盟が結成されヨーロッパの大半の国が参加，ライプツィヒの諸国民戦争で墺，普，露の連合軍に敗れエルバ島へ流された，1814年4月に退位しウィーン会議が開催されるが“議会は踊る，されど進まず”でそのうちナポレオンがエルバ島を脱出，1815年3月20日から6月22日までの百日天下に

対し，第５回対仏大同盟が結成され，（　６　）でイギリスのウェリントンとプロイセンのブリュッヘルに敗れ，南大西洋のセントヘレナ島に流された。

ナポレオンはヨーロッパに２つの種を蒔いた。自由主義の種と国民主義の種。占領地域に『ナポレオン法典』を適用し自由主義経済の原則を根づかせた。また侵攻され占領された地域のナショナリズム(国民意識)を覚醒させた。

3 ウィーン体制の成立と崩壊

【ウィーン会議】　ナポレオン１世をエルバ島に流し，オーストリア・ハプスブルク家の宰相メッテルニヒのお膝元でウィーン会議が開かれウィーン体制(メッテルニヒ体制)が始まった。会議の中心は，フランス外相タレーランとロシア皇帝アレクサンドル１世の３人。「会議は踊る，されど進まず」と言われ舞踏会ばかりで議事進行がままならず，途中ナポレオンが脱出して再度皇帝になった。

ウィーン体制の原則はタレーランが提唱した正統主義で，フランス革命勃発時(1789・７・14)の支配者・領土が正統というものだ。

同盟は神聖同盟。アレクサンドル１世が提唱したもので，キリスト教の友愛精神による秩序維持が趣旨であるが，英外相カッスルレーはナンセンス！と言った。ギリシア正教会の世俗代表のロシア皇帝の言う「友愛」に，カトリックの教皇，英国国教会のイギリス，イスラームのオスマン帝国は参加せず，実質的な同盟は四国同盟だった。イギリス・オーストリア・プロイセン・ロシアの四国で後にオランダも加わり(1818)五国同盟となった。

ウィーン体制の基本的性格は保守反動。王家による支配を保ち守って，革命・民族運動・国民による国家形成は抑えこむというものだ。

【ウィーン議定書】　ウィーン会議による決定事項。

①フランス・スペイン・ナポリでブルボン家が復活②イギリスはオランダからセイロン島(現スリランカ)とケープ植民地，フランスからマルタ島を獲得③オーストリア＝ハプスブルク家はヴェネツィア・ロンバルディアを回復④南ネーデルラント(現ベルギー)はオランダ領に⑤ドイツはライン同盟が廃止され，主権がある35君主国４自由市(リューベック・ハンブルク・ブレーメン・フランクフルト)から成る（　７　）になり，オーストリアが議長国，フランクフルトに国民議会⑥プロイセンはザクセンの北半分とラインラントを領有し，いよいよフランスに接近⑦ロシアはフィンランドを獲得⑧ロシア皇帝はポーランド立憲王国を支配(事実上第４次ポーランド分割)⑨スウェーデンはデンマークからノルウェーを獲得⑩

スイスは永世中立国に。

ウィーン体制がその理念どおり自由を抑圧できた例は4つ。ドイツのブルシェンシャフトの運動，イタリアの（　8　）の運動，スペインのリェゴによる立憲革命，ロシアのデカブリストの乱。逆に抑えなかった2例がギリシアの独立とラテン＝アメリカ諸国の独立だ。

【パリ七月革命】　フランスではブルボン朝が復活しルイ18世が即位した。立憲政治を展開したが次のシャルル10世は亡命貴族を優遇し反動的だったので市民の不満が高まった。政府は不満のガス抜きに1830年に（　9　）に出兵する。検閲を強化する国王の七月勅令に対し，老ラ＝ファイエットが率いる「栄光の3日間」七月革命となる。ロマン派の画家ドラクロワの作品「民衆を率いる自由の女神」に描かれた。結果成立したのが，七月王政と呼ばれるオルレアン朝で国王はルイ＝フィリップ。

七月革命の影響は①ベルギーがオランダから独立②イタリアではマッツィーニが青年イタリアを結成③イギリスで第1回選挙法改正④ドイツ関税同盟成立⑤ポーランドが独立革命→失敗しロシア領に（ショパンのピアノ曲「革命」のモチーフ）など。

【パリ二月革命】　七月王政はフランスの産業革命期のピークでルイ＝フィリップは「株屋の王」と言われた。産業資本家の時代に労働者は待遇改善を望むも選挙権は無く，ギゾー首相が「選挙権が欲しければ金持ちに成りたまえ」と言う時代。リヨンの紡績工場では暴動が起きた。1848年パリ・シャンゼリゼ通りの改革宴会（選挙権拡大要求の集会）が制圧されたのをきっかけに二月革命となった。

指導者は詩人で穏健共和派のラマルティーヌと社会主義者バクーニン。

この1848年2月というのは，マルクスとエンゲルスが『共産党宣言』を出した月だ。「ヨーロッパに妖怪が現れる，共産主義という妖怪が…これまでの社会の歴史は階級闘争の歴史である…万国の労働者よ団結せよ！」

二月革命により国立作業場がつくられるなど労働者寄りの政策が採られたことをブルジョワジーは危惧し，制度として確立した初の男子普通選挙の四月選挙では社会主義者は大敗した。労働者の六月暴動は鎮圧された。年末の大統領選挙ではナポレオンの甥っ子ルイ＝ナポレオンが当選した。ナポレオン1世の法典が所有権を保障していたから農民やブルジョワジーなどを安心させ得るからだ。

二月革命の影響でウィーン・ベルリンで三月革命。メッテルニヒが亡命しウィーン体制は終焉。

「諸国民の春」というナショナリズムが吹き出す一連の動きが見られた。ハンガ

リーではコッシュートのベーメンのパラツキーの民族運動，ポーランドのクラクフで暴動が起きたがロシアに弾圧され独立には至らなかった。

まとめるとウィーン体制とは1815年のウィーン会議から1848年のウィーン三月革命までの体制ということになる。

4 イタリア統一

【ウィーン体制下のイタリア】 シチリア島とナポリ（両シチリア王国）ではブルボン家支配が復活した。

ローマ付近は教皇領。ミラノを中心としたロンバルディア地方，南チロル，トリエステ，ヴェネツィアはオーストリア＝ハプスブルク家領。パルマ・モデナ・トスカーナ（フィレンツェが中心）は概してハプスブルク家の影響下だった。サヴォイア家はピエモンテ（トリノ中心）とジェノヴァとサルデーニャ島を合わせサルデーニャ王国を支配した。

イタリア統一運動をモデルニスモ（復興）という。

ウィーン体制の理念への抵抗つまり王家への抵抗は，ナポリとピエモンテにおける（　8　）の運動から始まる。（　4　）主義（共産主義）者と提携したのだからかなり過激な下からの運動だったが，メッテルニヒにより抑え込まれた。

1830年のパリ七月革命の影響でマッツィーニは青年イタリアを結成し共和国樹立を志向する。

1848年のパリ二月革命の影響でマッツィーニがローマ共和国をつくったが，教皇領を支配しフランス皇帝になる野心を持つルイ＝ナポレオンに邪魔された。またサルデーニャ王国のカルロ＝アルベルト王がサヴォイア家による上からの統一も試みたが，オーストリア＝ハプスブルク家にノヴァラの戦いに敗れ失敗した。

【イタリア統一戦争】 イタリア統一が本格化するのは，カルロ＝アルベルト王の子ヴィットーリオ＝エマヌエーレ２世が即位し1852年に宰相カヴールを登用してからだ。イタリアを統一したのはカヴールだ！

カヴールはナポレオン３世のクリミア戦争（1853～56）で支援しゴマをすり味方につけてから1859年イタリア統一戦争に入る。今度こそオーストリアを破り（ソルフェリーノの戦い→デュナンの国際赤十字運動）ロンバルディアを獲得した。ただ，サルデーニャ王国の強大化を恐れたナポレオン３世はヴィラフランカの和約でオーストリアと単独講和。

1860年，プロンビエールの密約を履行したカヴールはナポレオン３世にサヴォ

イアとニースを割譲し，中部イタリア獲得を教皇領側から邪魔されずに成し遂げた。同時期，青年イタリアのメンバーの（　10　）は千人隊を率いてシチリア島マルサラに上陸，ナポリと共にサルデーニャ王国に献上した。

こうして1861年サヴォイア朝イタリア王国が誕生した。首都はトリノ。

【統一後に加えられた地域】　イタリア統一後もまだイタリアになっていない地域が４つある。①ヴェネツィア。1866年のプロイセン＝オーストリア（普墺）戦争の時にプロイセンに味方して獲得②教皇領。1870年のプロイセン＝フランス（普仏）戦争の時，ナポレオン３世のフランス軍がスダンでの戦いに行った間隙をついて占領。その時点でフィレンツェにあった首都をローマに移す（1871）。教皇ピウス９世は「バチカンの囚人」になり，中世以来の教権vs俗権の対決に決着がついた。③南チロル・トリエステ。これら未回収のイタリアは第一次世界大戦でイタリアが三国同盟を裏切る（1915）ことにより，1919年ヴェルサイユ条約でオーストリアから獲得した。

5 シチリア島の歴史

シチリア島は紀元前，西をカルタゴのフェニキア人，東をギリシア人（代表都市シラクサ）が支配した。第１次ポエニ戦争の結果，共和政ローマの最初の属州（海外領土）となった。第２次ポエニ戦争の時にローマの兵士に殺されたのが数学者で物理学者のアルキメデスだ。ローマ帝国になり次いで東ローマ帝国。

７世紀にイスラーム教が誕生し地中海がイスラームの海になるとアラブ人（例えばファーティマ朝）が支配。次にノルマン人（ヴァイキング）による両シチリア王国（1130年，ルッジェーロ２世，都パレルモ）。次いでシュタウフェン朝のイタリア政策の結果ドイツ人が支配。（神聖ローマ皇帝フリードリヒ２世はイタリア生まれ）。次がアンジュー家のフランス人。その時のシチリア人の反抗が（　11　）という事件。アンジュー家の次はアラゴン家のスペイン人。そのまま親類のハプスブルク家が支配。そしてナポレオン戦争後のウィーン議定書ではブルボン家の支配になり，これを（　10　）が「千人隊」を率いて征服しサヴォイア家のヴィットーリオ＝エマヌエーレ２世に献上し，1861年建国時のイタリア王国に最初から編入された。

第二次世界大戦では，カサブランカ会談（1943）の決定に基づきアメリカ中心の連合軍がニューヨークのマフィアの協力を得てシチリア島に上陸。連合軍がローマに北上したら，既にムッソリーニは失脚しバドリオ政権になっていた。

6 ドイツ統一

【(　7　)】 ナポレオン戦争のウィーン議定書で(　7　)が発足した。主権を持つ35邦４自由市(フランクフルト・ハンブルク・ブレーメン・リューベック)の集合体でオーストリアが議長国でフランクフルトに国民議会が置かれた。

ルターの宗教改革300周年にあたる1817年に，ルターゆかりの地ヴァルトブルク城でブルシェンシャフト(学生組合)がメッテルニヒに抵抗したが鎮圧された。

【経済統合】 1830年，フランスでの七月革命の影響で，プロイセン中心の経済統合であるドイツ関税同盟が正式に発足した。歴史学派経済学のリストが提唱したのだが，彼は自由競争のイギリス古典派経済学に反対し，発展段階で遅れた国は保護関税政策を採用すべきと説いた。同時期はイギリス産業革命の完成期だった。

【フランクフルト国民議会】 1848年パリ二月革命はウィーンとベルリンに波及し，それぞれに三月革命が起こりメッテルニヒが亡命しウィーン体制が終わった。フランクフルト国民議会では，プロイセン中心のドイツ統一方式の小ドイツ主義が複合多民族国家オーストリアを含めた大ドイツ主義に多数決で勝利した。しかし，プロイセン王フリードリヒ＝ヴィルヘルム４世は“学者議会”からの帝冠を拒否した。

【政治統合】 その弟ヴィルヘルム１世が1861年に即位し翌年にはユンカー（エルベ川以東地主貴族)出身のビスマルクは宰相になった。

ビスマルクはいわゆる鉄血演説で，1848年のパリ二月革命の影響を受けた民主的な下からの統一の限界を説き，強力なリーダーシップによる上からの統一の妥当性を強調した。

シュレスヴィヒ＝ホルシュタイン領有問題(デンマーク戦争)の処理を巡り，プロイセン＝オーストリア(普墺)戦争になったが，参謀にモルトケを起用し劣勢を挽回し勝利した。

ビスマルクはオーストリアを除外しマイン川以北にプロイセン中心の(　12　)をつくりドイツを政治的に統合した。

オーストリアはハンガリーと「妥協(アウスグライヒ)」し，オーストリア＝ハンガリー帝国を形成し第一次世界大戦に至る。

【普仏戦争】 ビスマルクはスペイン王位継承問題を巧みに利用し(エムス電報事件)フランスのナポレオン３世とのプロイセン＝フランス(普仏)戦争を開戦する。その目的はドイツ統一のために，カトリック教徒が多数派のバイエルンなどの南

ドイツからカトリックの皇帝ナポレオン３世の影響力を排除することだ。スダンの戦いでフランスを破り，アルザス・ロレーヌを掠め取りドイツ統一を成し遂げた。こうしてホーエンツォレルン朝プロイセン王国にドイツ帝国の名がつけ加わった。建国の式典はヴェルサイユ宮殿鏡の間で行われた(1871)。

【アルザス・ロレーヌ史】　ドイツ語ではエルザス＝ロートリンゲンという。ロレーヌは800年に戴冠されたカールの曽孫のロタール２世に由来する。

1648年のウェストファリア条約でドイツ人のハプスブルク家からフランス人のブルボン家に。1792年に始まったフランス革命戦争はハプスブルク家のアルザス・ロレーヌ奪還作戦だったが，ナポレオンが登場し失敗。1871年普仏戦争の結果，ドイツ帝国に。1919年の第一次世界大戦のヴェルサイユ条約でフランス第三共和国に。1940年ナチス＝ドイツが占領するが終戦後フランス第四共和国領になり現在に至る(第五共和国)。

7 ビスマルク史

1871年ドイツ帝国首相となったビスマルクの外交政策の基本はアルザス・ロレーヌ奪還を狙うフランスの孤立化だ。

そのために1873年にオーストリア・ロシアを誘い三帝同盟を，1882年にはオーストリア・イタリアと三国同盟を結ぶ。パン＝ゲルマン主義の中心オーストリア＝ハプスブルク家とパン＝スラヴ主義の中心ロシア＝ロマノフ家のバルカン半島を舞台にした対立が深刻なものとなり三帝同盟が破綻すると，1887年にはロシアと単独で再保障条約を結びロシアをつなぎ止めた。これがビスマルク的国際体制(1871 ～ 90)だ。

ビスマルクの内政はアメとムチ。

ムチは南ドイツのギリシア正教徒の中央党との文化闘争。ユンカー(地主貴族)出身だからマルクス主義には厳しく(　13　)(1878)でドイツ社会主義労働者党を非合法化した。アメに相当するのが社会政策災害保険・疾病保険・養老保険で種々の保険・年金の制度を整えた。1879年には保護関税法。

1888年初代ドイツ帝国皇帝ヴィルヘルム１世が死去，子のフリードリヒ３世も急逝，その子ヴィルヘルム２世が即位した。

1890年に満期を迎えたロシアとの再保障条約を更新し引き続きフランスを牽制すべしと構えたビスマルクに対し若き皇帝(カイザー)ヴィルヘルム２世は破棄を主張した。またカイザーは社会主義にも寛容だった。

結局1890年にビスマルクは更迭される。ドイツ帝国の責任内閣制度が首相は皇帝に対し責任を負うものだったからだ。

マルクス主義政党は合法化され，社会革命党として再編成された。

そして再保障条約が更新されなかったので，ビスマルクが懸念したとおり露仏同盟が成立した(1891)。

1902年には日英同盟が成立した。ロシアの東シナ海への南下が共通の脅威となったからだ。

ヴィルヘルム２世は「新航路」をスローガンに世界政策を展開した。海相はティルピッツ。これを脅威と感じ1904年には英仏協商(英のエジプト，仏のモロッコにおける権益の相互承認)，1907年には英露協商(英のイラン南部とアフガニスタン，露のイラン北部，チベットは相互不干渉)が結ばれ，三国協商が完成し，こうしてドイツ包囲網が張り巡らされた。

8 イギリス現代史

イギリス産業革命の時期は1800年プラスマイナス30年。1770年～1830年のマンチェスター・リヴァプール間の鉄道開通までということだ。

【イギリス産業革命の背景】　1763年はフレンチ＝インディアン戦争のパリ条約。イギリスはフランスからカナダ・ミシシッピ川以東のルイジアナを獲得またスペインからフロリダを獲得した。北米とインドにおけるイギリスのフランス・スペイン・オランダに対する優位が確定した年。

16世紀以降のイギリス資本の蓄積は奴隷貿易や毛織物マニュファクチュアによるものだ。また国内の豊富な資源や原料供給地・販売市場としての植民地を有したことによる。17世紀以降は市民革命による経済の自由化やギルドの解体が進んだ。18世紀半ばの農業革命で例えば(　14　)(四輪作農法，大麦→クローヴァー→小麦→かぶ)のような農業技術の変化は第２次囲い込み運動を生み，ヨーマン(独立自営農民)は都市へ出て賃金労働者となり産業革命の労働力となった。

【産業革命の展開】　産業革命とは道具による生産から機械による生産への転換であり，また動力の転換のことだ。だから1811年からラダイト運動(機械打ち壊し運動)が起こる。

産業革命はまず木綿工業から始まった。インド＝キャラコ(木綿)の需要の増大は従来の毛織物業界にとっては打撃であった。議会は1700年にインド＝キャラコの輸入を1720年に使用を禁じた。フランスは1690年に輸入を禁じた。

1733年にジョン＝ケイが飛びおさ（飛び杼）を発明し織布の作業能率は倍加したが，このことが原料の綿糸不足を招き紡績部門の一連の発明を促した。

多軸（ジェニー）紡績（ハーグリーヴズ）→水力紡績機（アークライト）→ミュール紡績機（クロンプトン）→力織機（カートライト）→綿繰り機（ホイットニー・米国）。とりわけミュール紡績機こそイギリス産業革命の偉業だ！糸の細さがインド＝キャラコを抜いた。イギリスの木綿をインドに売ることになった。マンチェスターで織った木綿製品をリヴァプール港からインドへ売る。これが産業革命のエッセンス。つまりイギリス産業革命とはインド木綿という外圧に対するイギリス産業界のレスポンス（返答），木綿の輸入代替産業を興すための努力ということになる。マンチェスターに資金が集まる。以上が繊維革命だ。

【動力革命→交通革命】　水力から蒸気機関に動力は移行する。18世紀初期に（　15　）が蒸気力による排水用ポンプを発展させていたがワットがこれを改良し原動機としての蒸気機関を1781年に完成した。

工業の発展は石炭・原料・製品を大量に輸送する交通機関の発達を促した。1814年スティーヴンソンは蒸気機関車を発明。実用蒸気機関車はトレヴィシックが発明。1825年にストックトン～ダーリントン間で試験走行。1830年にはマンチェスター～リヴァプール間で営業運転。馬車から鉄道の時代に入った。

【古典派経済学の成立】　フランスの重農学派ケネーの『経済表』（1758）のキーワードはレッセ＝フェール（なすにまかせよ！）で，流通過程を統制する重商主義を批判し登場した。農業のように自由放任に生産すればよいという発想だ。自由放任を受け継いだのが，スコットランド・グラスゴーのアダム＝スミスで，彼は1776年の著作『諸国民の富（国富論）』で，各人がセルフインタレスト（自己利益）を追求すれば，その時神の見えざる手が働くと述べた。蜂が利己的だから蜂蜜ができるように，為政者による統制は国富の増大にとっては弊害であると。これは啓蒙の18世紀に流行った理神論という神のとらえ方（神は最初にサイコロを振った第１原因にすぎず後は人間に介入しないという発想，『百科全書』を編纂したディドロは人間を自動ピアノに喩えている）の影響を受けている。

古典派経済学はアダム＝スミス→マルサス→リカード。

マルサスは『人口論』（1798）で，食料増産が算術級数的であるのに対し人口増加が幾何級数的であるから，病気・戦争・犯罪・自殺などによる早死という悪弊がなければ人類はとっくに絶滅していたと論じ，晩婚を奨励している。穀物法撤廃には反対した。リカードも反対した。

産業革命たけなわの時期つまり産業資本家が婦人少年を１日15時間以上働かせ

ボロ儲けし始めた頃に登場したのが古典派経済学。工場労働者の平均就業年齢は５～８歳，２歳の工場労働者がいたという記録もある！で，平均寿命は19歳。

マルサスの言説の影響を大いに受けて（　16　）は1859年に『種の起源』を著した。進化論だ。同書には「自然淘汰による」が副題として付いている。

リカードは『経済学および課税の原理』で比較優位説から分業を説き穀物法撤廃に賛成，またアダム＝スミス以来の労働価値説を完成させ，マルクス主義の「働かざる者食うべからず」の思想に影響を与えた。

【自由主義的諸改革】　このようなわけで19世紀前半のイギリスは地主から産業資本家に都合のよい仕組みに改変すべく，規制の撤廃つまり自由主義的な諸改革が花開いた時期となる。

1801年にアイルランドがイギリスに併合されグレート＝ブリテンアイルランド連合王国が成立した。ということは，ほとんどがカトリック教徒のアイルランドが，審査法があるゆえカトリック教徒が公職に就けない国の一部になってしまったということになる。

オコンネルの活躍で1828年に審査法が廃止され1829年にはカトリック教徒解放令が出て，カトリック教徒にも公職への道が開かれた。

1832年にはパリ七月革命の影響で第１回選挙法改正。都市の産業資本家に選挙権が与えられ，地主のやりたい放題だった比例選挙区がなくなった。

1833年には一般工場法が制定され18歳未満は12時間労働までで夜業が禁止，９～13歳は９時間までとなった。尽力したのが世界初の幼稚園をつくったオーウェンで彼はニューラナークに模範工場をつくりアメリカにニューハーモニーという共産主義的共同体をつくったが失敗した。

1834年には東インド会社の商業活動が停止しインド貿易の規制が撤廃され，同会社は統治機関に特化した。

1839年にコブデンとブライトがマンチェスターで反穀物法同盟を結成する。穀物法は1815年に制定された。ナポレオン失脚に伴いナポレオンが出した大陸封鎖令も消滅するとヨーロッパ大陸から安い穀物が入ってくる。これに高関税をかけて地主の利益を守るのが穀物法。しかし産業資本家が議会で発言できるようになり1846年穀物法は撤廃された。

自由貿易体制へと移行したこの時期，アヘン戦争（1840～42）開戦を議会は僅差で可決する。パーマストン外交だ。

1849年には航海法も撤廃されイギリスは自由貿易体制に移行した。

【パクス＝ブリタニカ】　1851年には水晶宮がつくられたロンドン万博が開かれ

た。男子普通選挙が実現した1848年のパリ二月革命の影響でチャーティスト運動がピークを迎えた。1867年の第２回選挙法改正で都市の工場労働者にまで選挙権が拡大した。参考までに1884年の第３回（グラッドストン内閣）で農業・鉱山労働者に，1918年の第４回で30歳以上の女子に，1928年の第５回で男女普通選挙となる。

1858年のインド大反乱（シパーヒーの乱）を機に東インド会社を解散しインドを直轄領とし，1877年にはヴィクトリア女王がインド王を兼任し英領インド帝国が成立した（～1947）。19世紀のイギリスは保守党と自由党の二大政党制。保守党（ディズレーリ）は植民地を保ち守りたい党で帝国主義的にアイルランド自治には反対，対して自由党（パーマストン・グラッドストン）は自由貿易派の小英国主義でアイルランド自治に賛成。

グラッドストンの1870年にアイルランド土地法案が可決し，教育法で公立学校が増設された。1871年には労働組合法で労働組合が合法化された。

1884年には劇作家のバーナード＝ショーやウェッブ夫妻が（　17　）を設立，漸進的な改革を目指す。労働組合を取り込みつつも福祉主義は排除し，労働代表委員会（1900）を結成，1906年に労働党となった。

1911年の議会法で下院の上院に対する優越が実現し，アイルランド自治賛成の自由党が下院の多数を占めるため，1914年にアイルランド自治法案が可決したが第一次世界大戦勃発で実施は延期。1916年ダブリンでイースター蜂起が起き戦後の1922年アイルランド自由国として独立した。デ＝ヴァレラ首相の1937年にエール共和国と改称，1949年に英連邦から離脱しアイルランド共和国となる。

ベルファスト中心のアルスター地方（北アイルランド）はプロテスタントが多数派だからイギリスに留まる。当地の少数派カトリック教徒の公民権をプロテスタント並みにせよ！という運動を合法的に展開したのが（　18　）。テロという手法に走るのがＩＲＡ（アイルランド共和国軍）。

第一次世界大戦後の1924年にイギリスには初の労働党マクドナルド内閣ができた。1929年に世界恐慌が起こると第２次マクドナルド内閣は失業保険を削減したので労働党党首を除名された。外交面では，第一次世界大戦以後，イギリス植民地が本国から内政・外交両面で自治権を獲得する中でイギリス帝国はイギリス連邦と改称されたが，それは1926年のバルフォア報告と1931年のウェストミンスター憲章での決定による。1932年カナダのオタワでイギリス連邦経済会議を開催し恐慌克服を図った。

9 ユーゴスラヴィア史

まずは，旧ユーゴスラヴィアは１つの連邦，２つの文字(ラテン・キリル)，３つの宗教(カトリック・ギリシア正教・イスラーム)，４つの言語(スロヴェニア・クロアティア・セルビア・マケドニア)，５つの民族(これにモンテネグロ族)，六つの共和国(これにボスニア＝ヘルツェゴヴィナ共和国)。

【第一次世界大戦後】　第一次世界大戦でオーストリア＝ハプスブルク家とオスマン帝国が敗北しセルブ＝クロアート＝スロヴェーン王国(1918)が建国された。これが1929年にセルビア人主導のユーゴスラヴィア(南スラヴ族の国)と改称された。が，クロアティア人は不満だ。

これに乗じたのがバチカン(カトリック教会)とヒトラー(ナチス＝ドイツ)。1933年に政権に就いたヒトラーは教皇ピウス11世と政教条約を結ぶ。1939年に第二次世界大戦が勃発，1941年ドイツはバルカン半島に侵攻する時にクロアティア人と組んでセルビア人35万人を虐殺した。これに対しパルチザン抗争を繰り広げたのがクロアティア人ティトーだった。

【第二次世界大戦後】　終戦とともに発足したユーゴスラヴィア連邦人民共和国はティトーのカリスマ性ゆえにまとまっていた人工国家だった。共産主義者のティトーではあったがソ連のユーゴスラヴィア駐留を拒否しコミンテルンを除名される(1948)。1961年には首都ベオグラードで非同盟諸国首脳会議を開いた。スカルノ・ナセル・ネルーと呼びかけ実現した。そのティトーは1980年に死去。

ティトーが死んでもユーゴスラヴィアが解体しなかったのは冷戦という秩序があったからだ。

【冷戦終結後】　しかし1989年冷戦終了，1991年ソ連崩壊。ティトー・共産主義という接着剤のはげたユーゴスラヴィアの解体が始まった。

まずスロヴェニアとマケドニアが連邦から離脱。次にクロアティアが離脱する！と，いう時にユーゴスラヴィア内戦が始まった。

セルビアのミロシェヴィッチ大統領は少数派となっている同胞を助け国内の人気を維持する政策だった。

セルビアとクロアティアの戦争を経てクロアティアが独立。1992年に連邦は崩壊した。次にボスニア＝ヘルツェゴヴィナが独立する時にミロシェヴィッチはムスリム人とクロアティア人を民族浄化(エスニック＝クレンジング)した。ボスニア＝ヘルツェゴヴィナの民族宗教分布は40％がイスラーム教徒のムスリム人(ボ

シュニャク人)，32％がギリシア正教徒のセルビア人，18％がカトリック教徒のクロアティア人。国連が介入し1995年にボスニア紛争は終結した。

次にミロシェヴィッチはセルビア国内コソヴォ自治州の多数を占める（　19　）(イスラーム教徒)に対する武装闘争を展開した。1989年はコソヴォの戦い600周年だった。1389年，オスマン帝国のスルタン，ムラト１世にセルビア王国の首都コソヴォが奪われた。その屈辱の600周年をセルビアはナショナリズム高揚に利用した。ロシアのエリツィン政権がセルビアを支持したのに対し，英米(ブレアとクリントン)主導のNATO軍は1999年にベオグラードを空爆しセルビアを撤退させた。だから2009年にコソヴォにクリントンの像が建った。

2003年に新ユーゴスラヴィア連邦が解体しセルビア＝モンテネグロ成立。2006年にはモンテネグロがセルビアと分離。2008年にコソヴォがセルビアから独立し，結局ユーゴスラヴィアは７つに解体した。セルビアやロシアはコソヴォを承認していない。

ミロシェヴィッチは有罪判決の出たニュルンベルク裁判で審理中に死亡した(2006)。

ステファン＝ドゥシャンはウロシュ４世ともいう。1349年に『ドゥシャン法典』を発布，セルビア王国領土最大の全盛期を築きあげた。死後，王国は急速に衰退した。大セルビア主義者の間では大いに評価されている人物だ。この20世紀版がミロシェヴィッチである。

⑩ 第一次世界大戦とヴェルサイユ体制

第一次世界大戦は世界史の大転換点となった衝撃的な戦争だった。予測を超えた長期持久戦で総力戦の始まりとなった。総力戦とは政治・経済・教育・芸術・思想がすべて戦争のために動員される戦争のことだ。戦場よりも戦場への補給が勝敗を決する国民総動員で軍需生産をする体制。国民生活に深刻な影響を与え，ドイツ・ロシア・トルコのように革命により戦争が終結したケースが顕著だ。欧米文明への懐疑はシュペングラーの（　20　）が1918～22年にベストセラーになったことにあらわれた。

【第一次世界大戦】　1914年。二正面攻撃に勝ち目がないドイツ軍はシュリーフェン計画により，まずフランス軍を壊滅させ次にロシアを叩こうと計画し，永世中立国ベルギーに侵攻した。マルヌの戦いの後，塹壕戦で膠着状態になった。レマルクの小説『西部戦線異状なし』(1929)の題材だ。ヒンデンブルク将軍がタン

ネンベルクの戦いでロシア軍の進軍を阻止した。1915年，イタリアが三国同盟を裏切ってドイツに対し宣戦布告した。1916年ヴェルダンの戦い➞ユトランド沖の海戦➞ソンムの戦い（初めて戦車登場）➞イープルの戦い（独軍初めて毒ガスを使用）。1918年にブルガリア降伏➞ハンガリーがオーストリア帝国から離脱➞トルコが降伏➞オーストリアが降伏。第一次世界大戦中にドイツ社会民主党は分裂，主流派は戦争支持・国内平和政策，党内反戦派と左派スパルタクス団は独立社会民主党を結成し反戦運動を展開した。1918年11/３キールの軍港で水兵の反乱が起き，これが北ドイツ各地に波及，レーテ（＝労働者，兵士協議会）が結成され革命の波はベルリンへ波及しシャイデマンが共和国宣言，11/10皇帝ヴィルヘルム２世は退位し，11/11には社会民主党主流派のエーベルトを首班とした臨時政府が連合国と休戦条約を結んだ。

【パリ講和会議】　戦勝国33カ国はパリ講和会議を開いたが主要メンバーはウィルソン（米）ロイド＝ジョージ（英）クレマンソー（仏）西園寺公望（日）。イタリア代表オルランドはフィウメ問題などで会議から去った。

戦勝国は1919年にドイツとヴェルサイユ条約，オーストリアとサン＝ジェルマン条約，ブルガリアとヌイイ条約を，1920年にハンガリーとトリアノン条約をオスマン帝国とセーヴル条約を結んだ。

【ヴェルサイユ条約】　ドイツ本国の領土は10～13％減少した。アルザス・ロレーヌはフランスに割譲。メーメルは国際連盟が管理した後リトアニアに割譲。ポーランド回廊とシュレジエンの一部はポーランドに割譲。ダンツィヒは国際管理で港湾使用権はポーランドに。ルール地方は15年間国際連盟が管理した後，住民投票で帰属を決定する。一切の海外植民地を失う。赤道以北の島々は日本による，以南の島々はオーストラリアによる国際連盟委任統治に。南西アフリカ（現ナミビア）は南アフリカに，東アフリカは英に，カメルーンとトーゴランドは英仏の管理となった。山東半島の利権は日本のものとなった。オーストリアとの合併は禁止。民族自決の理念の例外にされたことがヒトラーを怒らせる。徴兵制は禁止。ラインラントは非武装。賠償金は1320億金マルクという天文学的金額。

【ドイツ革命】　臨時政府が革命の急進化を抑制し，軍部・旧勢力と妥協を図ると，スパルタクス団のポーランド系ユダヤ人女性（　21　）とカール＝リープクネヒトはレーテを基礎とする社会主義国家樹立を目指して（1919/１）ベルリンで武装蜂起したが，失敗して両指導者は虐殺された。こうして終了したのがドイツ革命だ。

【ヴァイマル共和国】　1919年２月にヴァイマルで国民議会が開かれ，８月にはヴァイマル憲法が制定された。国民主権，男女平等の普通選挙，直接投票の大統

領制(任期７年)，労働者の団結権，団体交渉権を定めたが，48条の大統領の非常大権行使がのちに問題化した。初代大統領は社会民主党のエーベルトで社会民主党，民主党，中央党のヴァイマル連合による連立内閣であった。

過酷なヴェルサイユ条約に対して政府は履行政策をとったが，ドイツを犠牲にしてヨーロッパ秩序の再編を目指す同体制に対する国民的反発が強く，右翼勢力が台頭する土壌となる。他方で，比例代表選挙制は多党分立状況を導き，有能な政治的リーダーシップの確立に失敗した。

1920年の軍部帝政派のクーデタ，カップ一揆は労働者のゼネストで対抗したが失敗した。

1922年にはソ連とラパロ条約を結び戦前債務と戦後賠償を相互に破棄，ソ連を国際的に最初に承認した。

【シュトレーゼマン】 1923 ～ 25年のフランスとベルギーによるルール占領に対してはストライキで積極的に抵抗，その結果起きた大インフレに対してシュトレーゼマンの挙国一致内閣は不動産を担保にしたレンテンマルクを発行して収拾した。国家通貨委員シャハトがライヒスバンク総裁に選ばれた。このような状況において1923年にヒトラーはヴァイマル共和国政府に憤り，第一次世界大戦中に「総力戦」という語を生んだルーデンドルフ将軍を擁立しヒトラーは(　22　)を起こしたが失敗して投獄(軟禁)された。

シュトレーゼマンはヴェルサイユ条約履行を推進，1924年にはアメリカの資本を導入するドーズ案を受け入れる。1925年にはマルクス内閣の外相としてフランスのブリアンやイギリスのオースティン＝チェンバレンと共に，イタリアのロカルノで条約を結びラインラントの非武装を再確認し協調外交を展開し地域的集団安全保障を確立，1926年のベルリン条約でソ連と友好条約を結び，また国際連盟に加入，ノーベル平和賞を受賞した。しかし，1925年には第一次世界大戦の東部戦線タンネンベルクの戦いのヒーロー，ヒンデンブルクが大統領に就任，社会民主党が後退し軍部，官僚，独占資本が進出し始めた。

11 第二次世界大戦への道のり

【ナチス＝ドイツ】 ウィーン出身のアドルフ＝ヒトラーは1919年にミュンヘンでドイツ労働者党に入党，翌1920年には国民社会主義ドイツ労働者党＝ナチスと党名を変更し，25か条綱領で，打倒ヴェルサイユ体制，徴兵制復活，ドイツ民族の優越，大ドイツ主義(オーストリア併合)，反ユダヤ，反資本主義，反共産主義

を謳った。党員は拡大し突撃隊ＳＡは数千規模になる。1923年の（　22　）に失敗し投獄される。合法路線への変更を痛感したヒトラーはランツベルク刑務所で軟禁状態になりそこで『わが闘争』を著し，大衆の心理を女性の心理になぞらえる。

1928年には共産党と社会民主党を合わせて「マルクス主義」政党の得票率は40％を超えていた。

1929年の世界恐慌の到来でナチスは共産党と共に議席を増やし，1932年７月には得票率37.3％でいよいよ第一党になる。11月の選挙でナチスが後退しヒンデンブルクはシュライヒャーに組閣させたが，共産党が議席を増進したので財界，保守勢力は危機感から本格的にナチスを支持するようになる。大資本や労働組合に反感を持つ農民，中産階級，共産党の進出を懸念する軍部や資本家，ヴェルサイユ条約に反対する国民の不満がナチス支持の背景にある。ナチスは街頭のテロ活動で政敵を圧倒，突撃隊ＳＡや親衛隊ＳＳがその原動力であった。映画や街宣車によるレコードなどゲッベルスによる大量宣伝活動も成功した。

1929年の新賠償方式ヤング案では賠償額そのものを減額，1931年のフーヴァー＝モラトリアムでは戦債，賠償の１カ年支払いを猶予，1932年のローザンヌ会議でさらに削減され，支払い可能になるまで取り立ては延期，アメリカの戦債も解消した。しかし翌年に政権に就いたヒトラーはヤング案に怒り賠償を打ち切ってしまう。

【ヒトラー政権】 1933年１月，ヒトラー内閣が成立，２月国会議事堂放火事件で中央党を非合法化，３月（　23　）を通しヴァイマル憲法を停止しナチスの独裁が成立した。10月には国際連盟を脱退，1934年にドイツ国防軍と対立していた突撃隊レームを粛清したあと，ヒンデンブルク大統領が死去するとヒトラーは総統＝フューラーと称した。

ナチスのユダヤ人迫害により「相対性理論」の物理学者（　24　）やドイツ系文学者トマス＝マンらが国外に亡命した。1935年のニュルンベルク法でユダヤ人の公民権が制限された。それは1936年のベルリン＝オリンピックでいったん緩和されたが，再び激化し1938年には水晶の夜と呼ばれるユダヤ商店への破壊がなされた。1939年からは強制収容所，特に1940年には現ポーランドにアウシュヴィッツ強制収容所が作られた。また労働組合もナチスの御用組織「ドイツ労働戦線」に再組織された。思想は弾圧され秘密警察ゲシュタポによる恐怖政治が行われた。

経済政策委員会のゲーリングによる第１次４カ年計画によりアウトバーンが作られ，1936年からの第２次では「バターより大砲」をスローガンに重工業が振興さ

れ着々と戦時体制への自給自足体制＝アウタルキーの完成が進んだ。

対外政策としてはドイツ人のlebensraumレーベンスラウム（生存圏）の確保を目標としてヴェルサイユ条約の破棄を目指し，1933年国際連盟と軍縮会議から脱退，1935年には住民投票でザールを併合。再軍備宣言し徴兵制を復活してヴェルサイユ条約を明白に無視した。これに対し，1935年４月にイタリアのムッソリーニは英仏とストレーザ戦線を形成して対抗，ドイツにヴェルサイユ条約無視を抗議したが実効性はなかった。５月に仏ソ相互援助条約やソ・チェコ相互援助条約が結ばれると，ヒトラーはこれをロカルノ条約違反と見なした。６月イギリスは対独宥和政策として英独海軍協定を結び，ドイツにイギリスの35％の軍艦と45％の潜水艦を認め自身ヴェルサイユ条約に違反した。

そして1936年ドイツはロカルノ条約を破棄しラインラントに侵攻した。

【戦間期のイタリア】　イタリアは1914年第一次世界大戦勃発時には「中立宣言」を出したが，1915年のロンドン密約で参戦と引き換えに「未回収のイタリア」の割譲が約束され三国同盟を破棄してドイツに宣戦。オルランドを全権としたパリ講和会議におけるサン＝ジェルマン条約で上記の地域は領有したもののフィウメ領有が認められずヴェルサイユ体制に不満を持った。同地を愛国詩人ダヌンツィオが義勇兵を率いて占領した。

第一次世界大戦の戦費の８分の７が外債で，戦後の経済危機の中で共産主義勢力が台頭，グラムシやトリアッティが1921年に結成したのが共産党。北イタリアの工業地帯ではストライキが頻発，南部では封建的大土地経営が残存し土地闘争が頻発。

もと社会党員のムッソリーニは1919年にミラノでファシスト党（戦闘ファッショ）を結成，社会主義と国粋主義を説くが，反共に路線変更，これを資本家，地主，軍人が支持し運動が発展，1922年のローマ進軍によりムッソリーニ政権が誕生した。1926年に独裁体制が確立，1928年にできたファシズム大評議会が国家最高議決機関で独裁体制が完成した。

対外政策としてはアドリア海を制圧し，1924年にフィウメを併合，1926年にはスロヴェニアを保護国化した。1929年にはラテラノ条約で教皇ピウス11世と和解しバチカン市国の独立を承認，イタリアはカトリックを国教とした。

世界恐慌への対策としては1935年にエチオピアに侵入しハイレ＝セラシエを退位させ，1936年に併合，1937年に国際連盟を脱退，1939年にはアルバニアを併合した。

また，スペイン内戦においてはヒトラーと共にフランコ将軍を支援，（　25　）

が成立した。

【スペイン内戦】　1931年のスペイン革命でブルボン朝のアルフォンソ13世が退位し共和政になった。コミンテルン第７回大会で採択された人民戦線戦術により，1936年アサーニャ首班の社会主義的政権が誕生した。土地改革がカトリック教会に及ぶ状況で，フランコ将軍の反乱をヒトラーとムッソリーニが支援した。

　コミンテルンとソ連は国際義勇兵（国際旅団）を組織，55カ国から義勇兵がはせ参じた。『誰がために鐘は鳴る』のヘミングウェー，スペイン内戦の義勇兵を描いたオーウェルの『カタロニア讃歌』，後のフランスの文化相ポンピドー。内戦中の1937年にドイツ軍は共和派の村ゲルニカを爆撃した。立体派（キュビズム）の画家ピカソは絵画で抗議した。ピカソが戦後フランス共産党に入党した。1939年スペイン内戦は結局フランコが勝利し終結，マドリードを首都として1975年まで権威主義的支配が続く。現在スペインはブルボン朝だ。その間カスティリャ語がスペインの国語となり，公的にはバルセロナのカタルーニャ語は禁止された。

【ミュンヘンの宥和】　1937年日独伊防共協定締結。

　1938年ナチス＝ドイツはオーストリアを併合した。次いで，チェコスロヴァキアに対してドイツ人居住地区ズデーテン地方の返還を要求，ミュンヘン会議が開かれる。そのメンバーは，ネヴィル＝チェンバレン（英）ダラディエ（仏）ヒトラー，ムッソリーニ。イギリスはヒトラーの反共に期待し宥和政策を採った。これが「ミュンヘンの宥和」。「戦争は回避された」とチェンバレンは豪語したが，ナチス＝ドイツはズデーテン地方のみならずベーメン（ボヘミア）メーレン（モラヴィア）を併合しスロヴァキアも分離し保護国化してしまう。さらにはリトアニアからメーメルを回収。ポーランドにダンツィヒとポーランド回廊返還を要求した。

【独ソ不可侵条約】　いよいよヒトラーが本領を発揮した。ポーランドはかねてからこの事態を想定しイギリス，フランスに接近していた。それを知っていたヒトラーは当面の敵ポーランド・敵になるであろうイギリス・フランス，そして究極の敵ソ連の４方面作戦を防ぐために，世界を驚愕させる条約を結んだ。それが1939年８/23の独ソ不可侵条約だ。

　ドイツ外相がリッベントロップ，ソ連はスターリンと外相がモロトフ。

　ポーランドの西部がドイツに優先権。ポーランド東部とバルト３国がソ連に優先権。

　８/25英＝ポ相互援助条約と仏＝ポ相互援助条約締結。

⑫ 第二次世界大戦

　第二次世界大戦(ヨーロッパ戦線)の経過。

【1939年】　1939年９/１ドイツ軍がポーランド西部に侵略し，第二次世界大戦が勃発した。９/３ポーランドと相互援助条約を結んでいた英仏両国がドイツに宣戦布告したが，西部戦線は半年以上平静で「奇妙な戦争」と呼ばれた。ドイツ軍は２週間でポーランド西部を制圧。ソ連軍も日本との(　26　)の決着がついた日の翌日の９/17にポーランド東部に侵攻，この時にポーランド人将校を殺害するカチンの森事件を起こし，さらにはバルト３国を併合，次いでにフィンランドにも侵攻したので国際連盟を除名された。

【1940年】　1940年，ドイツ軍が４月にノルウェー・デンマーク(スウェーデンは中立)，５月にオランダ・ベルギーへ侵略し，その結果イギリスにチャーチルの挙国一致内閣ができる。ドイツ軍がフランスに侵攻すると，英仏はダンケルクから撤退した。６月にパリが陥落，ペタンを首班とするヴィシー政府ができ，フランス第三共和制を廃止，ド＝ゴールはロンドンに自由フランス政府をつくりドイツへの抵抗を開始した。６月にはイタリアが参戦した。

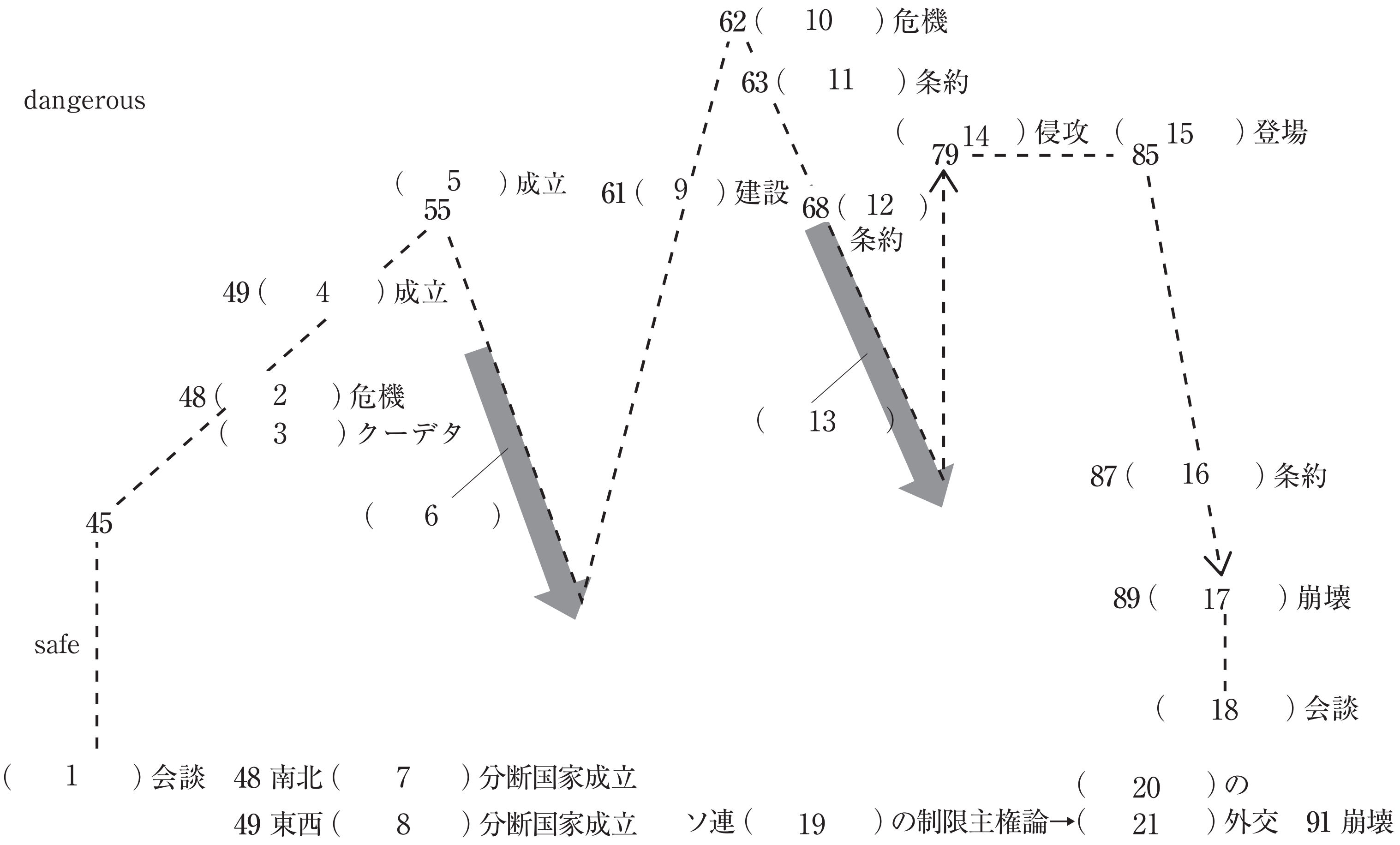
【1941年】　1941年３月アメリカは(　27　)を可決，４月ドイツ軍はバルカン半島へ侵攻しクロアティア人と組み，セルビア人を虐殺，ティトーはパルチザン運動でドイツに抵抗する。ドイツは６月，フィンランド経由でソ連に侵攻，ヒトラーが一番やりたい独ソ戦に突入した。７月英ソ相互援助条約が結ばれ，８月大西洋上会談がチャーチルとフランクリン＝ローズヴェルトにより開かれた。

【1942年】　1942年７月のエル＝アラメインの戦いではロンメル将軍のドイツ軍がエジプトでイギリス軍に敗れる。また，同時期に始まったスターリングラードの戦いでは，最終的には1943年１～２月にドイツ軍がソ連に敗れた。

【1943年】　1943年５月にソ連はコミンテルン(第３インターナショナル)を解散，カサブランカ会談の取り決めに基づき，７月連合軍がシチリア島に上陸，イタリアではムッソリーニが失脚し，バッジオ政権が誕生した。

【1944年】　1944年６月，連合軍はテヘラン会談の取り決めに基づき，アメリカ軍のアイゼンハワーを連合軍最高司令官に北フランスのノルマンディーに上陸，８月にはパリを解放した。

【1945年】　1945年５月ソ連軍によりベルリンが陥落。ヒトラーは自殺し，ドイツは無条件降伏した(1945年５月７日)。


dangerous
safe
45
(　1　)会談
48(　2　)危機
(　3　)クーデタ
49(　4　)成立
(　5　)成立
55
(　6　)
48 南北(　7　)分断国家成立
49 東西(　8　)分断国家成立
61(　9　)建設
62(　10　)危機
63(　11　)条約
68(　12　)条約
(　13　)
(　14　)侵攻
79
85
(　15　)登場
87(　16　)条約
89(　17　)崩壊
(　18　)会談
ソ連(　19　)の制限主権論→(　21　)外交　91 崩壊
(　20　)の

13 冷戦

【ヤルタ体制】　アメリカのジャーナリスト，ウォルター＝リップマンにより名づけられた米ソ「冷戦」は「ヤルタからマルタまで」，つまり1945年２月のヤルタ会談から1989年12月マルタ会談まで，正しくはその間の時期だ。米フランクリン＝ローズヴェルト，英チャーチル，ソ連スターリンが参集したヤルタ会談では，ナチス＝ドイツ降伏後のソ連の対日参戦などが話し合われた。1945年５月７日のソ連によるベルリン陥落の後，ドイツは英米仏ソの４カ国に占領された。ベルリンも同じだった。ナチスの戦犯は「人道(良心)に対する罪」を問われ，ニュルンベルク裁判で裁かれた。ヤルタ協定に即して，８月９日に長崎に原子爆弾が投下される直前にソ連は日ソ中立条約を一方的に破棄して満州に侵攻した。ちなみにアメリカがニューメキシコで原爆実験を成功したのは７月のポツダム会談開会の前日だった。この会談にソ連のスターリンも出席していたが「ポツダム宣言」が米英中３国で宣言されたことにより米大統領トルーマンとの間に不信感が芽生えたという。

【鉄のカーテン】「バルト海のシュテッティンからアドリア海のトリエステまで鉄のカーテンが降ろされた」，これは政権から離れていた元イギリス首相チャーチルのフルトン(鉄のカーテン)演説であるが，まだこの段階においては米ソ対立は観念の対立だった。しかし，国防省のジョージ＝ケナンのもとに，1947年トルーマンが(　28　)とトルコの共産化を懸念し，いわゆるトルーマン＝ドクトリン(共産主義封じ込め)を出すことにより対立が顕在化することになる。

【1948年】　1947年，国務長官マーシャルがアメリカ＝ドルによるヨーロッパ復興計画マーシャル＝プランをソ連，東欧を含む全ヨーロッパに対して出すと，その受け入れとの関連で1948年にチェコスロヴァキアでソ連の指導で共産クーデタが起き，一夜にして共産党の一党独裁となった。これに対してイギリス，フランス，ベルギー，オランダ，ルクセンブルクがブリュッセル条約を結びＷＥＵ(西欧同盟，西欧連合)ができ，これが翌1949年のＮＡＴＯ(北大西洋条約機構)の中核となる。

1948年にはドイツにおける西側の占領地域でアメリカが実施した行政改革に反発したソ連による「ベルリン封鎖」と，それに対するアメリカの１年以上に及ぶ大空輸作戦という米ソの直接対決も起きた。

1948年，大韓民国(首都ソウル)と朝鮮民主主義人民共和国(首都ピョンヤン)が成立した。

【両陣営成立】　1949年，ドイツ連邦共和国(西独，ボン)とドイツ民主共和国(東

独，ベルリン)が成立した。1949年10月１日，中華人民共和国(北京)が成立した。1949年，ソ連が原爆実験に成功した。

1950年に勃発した朝鮮戦争の最中の1951年サンフランシスコ平和条約に基づき翌1952年４月28日に日本は主権を回復，西ドイツは1954年のパリ協定で主権を回復し翌1955年ＮＡＴＯに加盟した。これに対し東側はワルシャワ条約機構を発足させた。

【雪どけ】　このような冷戦構造の完成は危機感と共に同時に「雪どけ」の時代を招来し，大国はジュネーヴでアメリカのアイゼンハワー，ソ連のブルガーニン，イギリスのイーデン，フランスのフォールが４巨頭会談を持った。また，スカルノの故郷インドネシアのバンドンで有色人種による初の会議，アジア＝アフリカ(Ａ＝Ａ)会議が開かれた。これは大東亜共栄圏構想を打ち上げた日本が戦争中に開催した大東亜会議をモデルとする会議だった。

1959年には米ソ首脳アイゼンハワーとフルシチョフがキャンプ＝デーヴィッド会談を開き「雪どけ」はピークを迎えた。

【危機】　1960年のＵ２型機事件，1961年のベルリンの壁構築，1962年のキューバ危機と冷戦は熱戦への様相を帯びていった。1959年のキューバ革命でバティスタ政権を倒したカストロの革命政権はアメリカとの関係を悪化させ，それがカストロに社会主義宣言を決意させソ連に接近させた。ソ連がキューバの砂糖を買うことの見返りがキューバにソ連のミサイル基地を建設することだった。ケネディ政権のアメリカは一歩も引かず米ソ全面戦争の危機となったが幸いにも回避された。

【緊張緩和】　この危機を受けて，ホワイトハウス(ワシントンＤ．Ｃ．)とクレムリン(モスクワ)にはホットラインが設置され，1963年には部分的核実験停止条約，1968年には核拡散防止条約と軍縮が進む一方，米ソの対立は1965年に始まるベトナム戦争に代表される代理戦争の形をとり，また中ソ論争や1964年のソ連を無視した中国の原爆実験，1966年のフランスのＮＡＴＯの軍事機構からの脱退，1968年の「プラハの春」という自由化運動に対するワルシャワ条約機構軍による抑圧(チェコ事件)，反ド＝ゴールのパリ五月革命など東西両陣営において多極化が進行した。

1970年代はデタント(緊張緩和)の時代，ソ連はブレジネフ政権の「停滞」の時代だった。

【第２次冷戦】　ところが，1977年にブレジネフ政権のソ連が共産主義者支援の名目でアフガニスタン(首都カーブル)に侵攻，新冷戦(第２次冷戦)の時代となり，1980年西側諸国はモスクワ＝オリンピックをボイコットした。

1981年「強いアメリカ」を外交スローガンにレーガンが大統領に就任，ソ連を「悪の帝国」と呼び，1983年にはカリブ海の小国グレナダに侵攻し共産化を阻止した。1984年のロサンゼルス＝オリンピックを東側はボイコットした。

1980年，ポーランドのグダンスク（旧ダンツィヒ）の電気工ワレサがソ連の圧力とポーランド・ヤルゼルスキ政権による戒厳令にめげず，教皇ヨハネ＝パウロ２世の支持のもと，自主管理労組「（　29　）」運動を展開，このように東欧に新風吹く中，1982年にブレジネフが死去した。

【ゴルバチョフ】 1985年に登場したゴルバチョフソ連共産党書記長は，外相シュワルナゼと「新思考外交」を展開，ブレジネフ＝ドクトリン（制限主権論）を改め，東欧の自主性を尊重した。「欧州共同の家」構想や社会主義建て直し（ペレストロイカ）は結局，西側つまり市場経済へと接触することとなり経済の多様性の受容が共産党の一党支配を次第に弛緩させていった。

1987年にはレーガン米大統領との間にＩＮＦ（中距離核戦力）全廃条約を締結1988年に発効，同年アフガニスタンからの撤退を開始した。

1986年の（　30　）原子力発電所事故をきっかけにグラスノスチ（情報公開）を推進，その結果，映像を通して西側の消費生活への欲求が共産圏，とりわけ東ベルリンにおいて加速した。オットー＝ハプスブルクとハンガリー・ネーメト首相の働きかけの結果，オーストリアとハンガリーの国境の鉄条網を撤去することをゴルバチョフが許可し，それが蟻の一穴となって1989年東ドイツ政府は「ベルリンの壁」を撤去した。同時期，マルタでアメリカのブッシュ大統領と冷戦終結を宣言，翌1990年10月コール政権の西ドイツが東ドイツを吸収し統一した。ソ連は1991年の保守派のゴルバチョフに対する８月クーデタの失敗の結果，ロシアのプーチンに実権が移行，12月にはソ連邦が解体した。

⑭ ロシア革命

カール＝マルクスの『資本論第１巻』が出版されたのが1867年，ロシア語に翻訳されたのが1872年だ。ロシア＝マルクス主義の父がプレハーノフで1898年にマルクス主義政党のロシア社会民主労働党を設立した。1903年にプロレタリア（労働者）革命を目指す多数派ボリシェヴィキとブルジョワ革命を目指す少数派メンシェヴィキに分裂，このボリシェヴィキが後のソ連だ。それとは別にナロードニキ運動の挫折インテリたちが，社会革命党（SR＝エスエル，1901）を結成した。２種類の異なる革命集団を形成しロシア史は20世紀に突入したわけだ。

【第１次ロシア革命】　1904年に始まる日露戦争では東郷平八郎に日本海海戦で敗れる。1905年のポーツマス条約では小村寿太郎・ウィッテが会し米大統領セオドア＝ローズヴェルトが仲介した。首都ペテルブルクでは修道士ガポンに率いられた民衆による反戦運動とそれに対する軍隊の発砲，血の日曜日事件が起こる。第１次ロシア革命の序曲だ。初めて労働者による評議会，政治的会議を意味するソヴィエトができた。国会開設と憲法制定を約束する十月勅令をニコライ２世が発布（ウィッテが起草）し事態を収拾した。この時急進的運動から離脱したブルジョワが結成したのが立憲民主党（カデット，1905）だ。

ウィッテに次いで1906年に権力を握った（　31　）は，革命の温床となるミール（共同体）を解体し自作農を育成する革命と反対方向の政策を採った。

【ロシア革命三月革命】　1914年セルビア支援で第一次世界大戦に参戦。タンネンベルクの戦いでドイツのヒンデンブルク将軍に敗れる。

この頃，怪異な力を持つラスプーチンがロマノフ家に出入りしていた。皇帝ニコライ２世の皇太子アレクセイの血友病を治癒できる力があったので王妃アレクサンドラに寵愛された。

1917年３月の国際女性デーに発生したデモからロマノフ朝が倒れ，臨時政府とソヴィエトの二重権力となる。三月革命だ。臨時政府の首班はカデットのリヴォフ公爵でメンシェヴィキとの連立，エスエルからケレンスキーが単独で参加していた。ソヴィエトはメンシェヴィキとエスエルが主体である。

亡命先のスイスから帰国したボリシェヴィキのレーニンは「共産党宣言」を発表し「すべての権力をソヴィエトへ」集中すべし臨時政府は不要だと主張した。

【ロシア十一月革命】　ボリシェヴィキの夏の蜂起は鎮圧されレーニンはフィンランドへ亡命した。臨時政府も夏に改組され，ケレンスキーの内閣になった。帝政派コルニーロフの反乱鎮圧に臨時政府はボリシェヴィキの手を借りたため，ボリシェヴィキの発言権が増大した。

11月。ペトログラードのエルミタージュ宮殿のケレンスキー政府が無血革命でボリシェヴィキに打倒された。これがロシア革命のクライマックスだ。

【ボリシェヴィキ一党独裁】　ボリシェヴィキは平和に関する布告（無併合・無賠償・民族自決の即時講和）と土地に関する布告（地主制を廃止し土地は耕作者に）で民衆を味方につけた。革命の目的である憲法制定議会ではエスエルがボリシェヴィキより多数だった。「働かざる者食うべからず」の価値観に固執するボリシェヴィキは被搾取者の権利宣言採択と勤労者のみに参政権のある社会を実現するためにエスエルを武力で議会から排除した。いよいよ暴力革命に突入する。ボリ

シェヴィキの一党独裁だ。チェカ(反革命・サボタージュ・投機取り締まり全ロシア非常委員会)が創られ，反ボリシェヴィキ集団が血祭りに挙げられる。後にGPU→NKVD→KGBと改称される。ソ連が共産党(ボリシェヴィキ)一党独裁体制を維持できたのもKGBがあったゆえである。

1918年ボリシェヴィキの(　32　)がブレスト＝リトフスク条約でドイツと単独講和を結ぶ。ボリシェヴィキはロシア共産党と改称され首都はモスクワ，政治の中枢はクレムリンとなった。

【戦時共産主義とネップ】　反革命勢力との内戦やシベリア出兵(チェコ兵の捕虜救出を口実とした英仏日米伊などによる)のような干渉戦争に対処するために，ボリシェビキが採用した戦時共産主義は国有化・配給制度・食料を農民から強制徴発する内容だったので，農業生産性が低下し1921年には餓死者数百万人，革命派までがクロンシュタットで反乱を起こした。こうした事態にレーニンはブハーリンの理論を実践に移しネップ(新経済政策1921～28)を採用した。ネップでは食料の強制徴発を中止し小規模な私企業を許可した。競争原理の導入により生産性は回復，富農ジェントリや富商ネップマンが登場した。

15 ソ連史

20世紀の実験国家，(　33　)はネップ期の1922年に成立した。ロシア・ウクライナ・ベラルーシ・ザカフカス(現在のジョージア・アルメニア・アゼルバイジャン)の４共和国で発足した。

【スターリンの時代　1924～53】　1922年にレーニンが認知症状態になると，ジノヴィエフ，スターリン，カーメネフの三頭政治になる。1921年の人民委員21人中17人がユダヤ人だった。だからヒトラーはボリシェヴィキを嫌ったのだ。レーニンが死ぬとスターリンは一国社会主義論を唱え，世界革命論の(　32　)に理論闘争を挑み，1925年の共産党大会で追い落とし1929年に追放し1940年にメキシコで殺害した。

一国社会主義論を政策化したのが第１次五カ年計画だ。1928年に始まったが，重工業に重点を置きつつ集団農場(コルホーズ)国営農場(ソフホーズ)を建設し農業を集団化した。クラーク450万人が革命の敵として殺害された。第２次では軽工業に第３次(1938～)では軍事部門に重点が置かれた。

【赤の30年代】　1929年に始まる世界恐慌の影響を受けず社会主義の優位が強調された「赤(共産主義)の30年代」にスターリンは，グラーグ(強制収容所)という

巨大な刑務所網で政治犯を平均1／3の賃金で働かせたがこれは全ソ連の労働の10%を占めた。「競争」という動機付けなき社会が74年も存続し得た秘密はここにある。農業の集団化の過程で第1の穀倉ウクライナでは1932～33年にかけて700万人以上が餓死，1929～33年の期間に計1500万人が餓死か粛清で死んだ。ちなみにロシア人の第一次世界大戦の死者は780万人だ。

1934年からは共産党内部でも粛清が始まり，中央委員会総員71人のうち1939年の委員会まで死を免れたものはスターリン自身を含め15人だった。

1936年に制定され1977年まで施行されたのがスターリン憲法で普通選挙・平等な直接秘密選挙が特徴。スターリンは世界恐慌により混乱した国際情勢を巧みにとらえ，孤立したソ連外交の劣勢を挽回するため外相リトヴィノフを使って平和外交を展開する一方，1919年に設立された第3インターナショナル(communist-international，コミンテルン)を通じて各国共産党にソ連防衛の義務を負わせた。

【第二次世界大戦後】 恐怖政治を敷いたスターリンにとっての二つの幸いが1929年に始まった世界恐慌と1941年に始まった大祖国戦争(独ソ戦)だ。国民の眼を市場経済(資本主義)とナチズムという外部の敵に釘付けにできたからだ。

戦後の1947年にアメリカのトルーマン大統領の国務長官によるマーシャル＝プラン(ヨーロッパ復興計画)が出されると，それに対抗して(　34　)が組織される。ソ連・ユーゴスラヴィア・ポーランド・ルーマニア・ブルガリア・チェコスロヴァキア・ハンガリー・東ドイツ(1949から)とフランス・イギリスの共産党が結成した。1948年にユーゴスラヴィアのティトーはソ連のユーゴ駐留を拒否したので除名された。

1949年には原爆実験が成功した。

【フルシチョフの時代　1953～64】 1953年スターリンが死去。東ベルリンで暴動が起きる。

ソ連ではマレンコフ首相，フルシチョフ党第一書記の集団指導体制に入る。1955年にマレンコフが失脚するとブルガーニンが首相になりジュネーヴ4巨頭会談に出席した。ブルガーニンと鳩山首相が1956年に日ソ共同宣言に調印し日ソの国交が回復しシベリア抑留者の帰還や通商の再開が謳われたが北方領土の問題は未解決のままである。

【ワルシャワ条約機構】 1955年，西ドイツのNATO（北大西洋条約機構）加盟を受けてワルシャワ条約機構が成立した。加盟国は，ソ連・ポーランド・ルーマニア・ブルガリア・チェコスロヴァキア・ハンガリー・東ドイツ・アルバニアの8カ国。

1956年の共産党第20回大会でフルシチョフによるスターリン批判がなされた。個人崇拝が批判された。フルシチョフは平和共存に転じコミンフォルムを解散した。ハンガリーとポーランドで暴動となった。

1957年，人工衛星スプートニク打ち上げに成功。

1958年，フルシチョフは首相を兼任し党と国家組織を掌握，軍事的優位を背景にアメリカに雪どけを迫る。

1959年にはアイゼンハワーとキャンプ＝デーヴィッド会談。アメリカ帝国主義を最大の敵とする毛沢東の反発を買い中ソ論争が加速しキューバ危機で決定的になる。1961年，ガガーリンが世界初の有人宇宙飛行。

【ブレジネフの時代　1964～82】 農業政策の失敗からフルシチョフが失脚しブレジネフが第一書記になる。小スターリンと言われた彼は1968年のプラハの春という自由化運動を戦車でつぶした。このチェコ事件をきっかけにブレジネフ＝ドクトリン（制限主権論）を明らかにする。社会主義圏全体の利益のためには東欧各国の主権は制限する，がその内容。

【停滞の時代】 1970年代は米ソ緊張緩和デタントの時代。戦略兵器制限交渉SALTⅠ（1972）Ⅱ（1979）が締結された。

しかし，1979年ソ連がアフガニスタンに侵攻しデタントは終わった。カーター政権のアメリカおよび西側諸国は1980年のモスクワ＝オリンピックをボイコット，新冷戦の時代に突入した。

ブレジネフ時代は停滞の時代。中央集権的官僚機構が温存された。『イワン＝デニーソヴィッチの一日』の著者（　35　）はソ連全体を『収容所群島』と表現した。スターリンを批判し検閲制度も批判したので，市民権剥奪のうえ国外追放，ついでに受け入れ先のアメリカをも批判した。後に反体制物理学者サハロフ博士も国内追放（軟禁状態）。２人ともノーベル賞受賞者。

【ゴルバチョフの時代　1985～91】 ペレストロイカとは（社会主義）建て直しという意味だ。ソ連がネップ期つまり市場経済を採用していた時期に発足したという原点に立ち戻り，競争原理を導入し西側諸国との取引を奨励した。

欧州共通の家構想を進め西側諸国と価値観をすりあわせる。となると，複数政党の可能性を模索しなければならなくなる。ソ連とはボリシェヴィキの一党独裁が継続した状態のことをさす。

1986年にウクライナの（　36　）で原子力発電所の大事故があった。情報公開（グラスノスチ）に踏み切る。

ゴルバチョフの外交は新思考外交。これは1988年の四つの自由宣言に基づく。

ブレジネフ＝ドクトリンの否定つまり東欧の自主性を認める外交である。これが1989年のベルリンの壁崩壊を生む。その結果東ドイツのみならず東欧各国でも共産党一党支配が終わった。1990年には西ドイツが東ドイツを吸収した。いよいよソ連でも共産党支配の地盤が緩み始める。

リトアニアなどバルト３国は1939年の独ソ不可侵条約の結果，理不尽にもソ連に併合された地域だ。

ゴルバチョフは妻とリトアニアに行き，ソ連邦からの離脱を撤回するよう説得したが拒否され，バルト３国の民は手をつなぎ人間の鎖を作って連邦離脱を訴えた。ゴルバチョフは軍事的解決を選んだ。このブレジネフ的手法に西側諸国は過敏になりゴルバチョフの頭越しにロシア共和国のエリツィン大統領を交渉相手とし始める。

1991年８月，ゴルバチョフは黒海の保養地で拘束されたが結局はエリツィンに助けられた。

【ロシア共和国】　ロシア共和国のエリツィンそしてプーチン政権にとっての大問題はチェチェン問題だ。チェチェン自治共和国がロシア共和国からの独立を求めている。ロシアは2014年には住民投票を経てトルコ共和国領であったクリミア半島を併合した。

⑯ アメリカ合衆国史（独立戦争～南北戦争）

【大航海時代】　ヨーロッパ人が「地理上の発見」と呼んだ事業の背景には学術の進歩があり，イタリア人トスカネリの地球球体説などがその代表だ。また，ヨーロッパ諸国が東洋との直接交渉を望んだこともその要因だ。ジェノヴァ生まれのコロンブスはスペイン女王イサベルの援助を受け1492年にスペインのパロス港をカラベル船サンタ＝マリア号で出航，サンサルバドルに到着。1493～1504年まで３回渡航し中南米海岸まで到達。その影響でマゼランが1519～22年にかけて世界一周した。

フィレンツェ生まれのアメリゴ＝ヴェスプッチは1497年以来４回に渡って特に中南米を探検，航海報告書をメディチ家へ送った。16世紀初ドイツ人ヴァルトゼーミュラーが『世界誌入門』のなかで“アメリカ”と命名した。

【（　37　）と商業革命】　ヨーロッパ列強の植民地獲得抗争が展開した。アメリカ銀が大量に流出したので貨幣価値が下落，物価は約３倍に騰貴した。このような（　37　）により，南ドイツの銀を独占していたフッガー家や銀の流入による

インフレーションが固定地代に依存していた封建領主層を没落させた。また商業革命というヨーロッパ商業圏の重心がヴェネツィア，ジェノヴァなど地中海からリスボン，セビリャ，アントウェルペンなど大西洋岸に移る変化を導いた。

【コンキスタドール】 スペインのコルテスは1521年にアステカ王国の首都テノチティトランを征服し，またピサロは1533年にペルーを征服しインカ帝国を滅ぼした。1545年にポトシ銀山が発見されるとインディオやのちにアフリカ人奴隷が酷使された。植民者が国から先住民の教化と保護を条件に土地・住民の統治を委託され賦役労働を課すのがエンコミエンダ制，スペインの聖職者ラス＝カサスがインディオへの布教と奴隷化防止に尽力した。その著作が『インディアスの破壊についての簡潔な報告』。しかしこれにより西アフリカからの黒人奴隷の流入が加速した。

ポルトガルのカブラルは1494年のトルデシリャス条約に基づき，1500年ブラジルを獲得，経営方針はスペインとほぼ同じだった。

オランダは1621年に西インド会社を設立，ギアナ，西インド諸島を経営した。同会社が1626年にはハドソン川流域にニューネーデルラント植民地とニューアムステルダム市を建設したが，1665～67年の第２次英蘭戦争で喪失した。

【イギリス】 1497年にはヘンリ７世の命令でイタリア人カボット父子がニューファンドランドを探検。16世紀後半には国王エリザベス１世とウォルター＝ローリーがヴァージニアに進出したがまもなく放棄。次の国王ジェームズ１世の1607年にヴァージニア会社がジェームズタウンを建設。こうしてヴァージニア植民地が誕生。1619年にヴァージニア議会が置かれた。

新大陸進出は太平洋進出とインド貿易が目的だった。同王の1620年にはピルグリム＝ファーザーズと呼ばれる英国国教徒がメイフラワー号でプリマスから出帆しプリマス植民地を建設。また少し後の1629年にはマサチューセッツ植民地がボストンの町と共に建設される。これらの植民地がまとまって，いわゆるニューイングランド植民地を形成した。そこにおいては，信仰の自由，経済の自由を希求し，参政権を持つ全住民参加のタウンミーティングという制度があった。1636年にはボストンに牧師養成のための（　38　）大学が設立された。

1664年にはニューアムステルダムを占領しニューヨークと改名，1681年にはクウェーカー教徒ウィリアム＝ペンがペンシルヴァニア植民地を建設。1732年のジョージア植民地をもって１個の植民地が完成した。各植民地にイギリス議会政治の伝統にならって設けられた住民代表からなる議会を植民地議会という。

【フランス】 1534年以降カルティエが新大陸を探検，1603年の国王ルイ13世の

時シャンプランがセントローレンス川流域を探検し1608年ケベック（川の挟まる地）の要塞を築きニューフランスの基礎を築きビーバーの毛皮貿易の拠点とした。

ルイ14世の時にはラサールがミシシッピ川をくだってルイジアナ植民地が形成されることになる。植民地の性格としては王室の直接支配で，カトリックが多く，移住者の大部分は毛皮取引が目的の大商人や宣教師であった。メキシコ湾河口に建設されたのがニューオリンズだ。

【第２次英仏百年戦争】　新大陸における英仏の抗争は，1688～97年のウィリアム王戦争（これは欧州におけるファルツ継承戦争と並行），次の1702～13年のアン女王戦争（スペイン継承戦争と並行）と展開した。後者においては1713年のユトレヒト条約でニューファンドランド，アカディア，ハドソン湾地方をイギリスはフランスから獲得した。さらに1744～48年まで，欧州のオーストリア継承戦争と並行してジョージ王戦争，七年戦争に並行してフレンチ＝インディアン戦争，後者のパリ条約でイギリスはカナダ･ミシシッピ川以東のルイジアナを獲得した。これら新大陸における４つの戦争は第２次英仏百年戦争（1688～1815）の前半戦といえる。

イギリスの内政干渉はフランス・スペインほどではなかった。前述のように北部ではタウンミーティングという直接民主政の地方自治が，南部ではカウンティ制というイギリス的代議制があった。1639年にはのちの憲法の基礎となったコネティカット基本法が制定された。

経済面ではプリマスを中心としたニューイングランド地方では，漁業・造船・海運・毛皮取引・ラム酒の製造など。南部では1619年にはじめて黒人年季奉公人がヴァージニア州に移入されプランテーションという産業の形態が発達していた。品目は米・藍・タバコなど。

【アメリカ独立革命】　イギリス本国の植民地統治政策はいわゆる重商主義政策で1651年の航海法に始まって，1699年の羊毛品法，1732年の帽子法，1733年の糖蜜法，1750年の鉄法を実施しつつ，王領植民地を増加させるなどして漸次政治的圧力を強化した。

とりわけ七年戦争が終結した1763年には国王ジョージ３世がアパラチア山脈以西への白人の移住を禁止する宣言を出したり，1764年の砂糖法，65年の印紙法が出されると，植民地側は反動化しヴァージニア決議によって英国製品不買協定を結ぶ。背景には新大陸におけるフランスの勢力が著しく減退したので本国の保護が不要になったことがある。パトリック＝ヘンリらは“No taxation without representation代表なくして課税なし”と主張して1766年印紙法は撤廃された。

1767年には制裁規定や歳入法や関税局の設置や海事裁判所の拡充の４法を定めたタウンゼンド諸法が発令するも1770年には茶税のみ残して廃止された。

これらが独立革命の間接的要因であるならば，1770年のボストン虐殺事件のあとの1773年の（　39　）が直接的要因であり，これは本国にとっては立法権の侵害，イギリス本国の一部東インド会社の私有財産の侵害としてうけとられた。本国はボストン港の閉鎖，マサチューセッツ州の自治権剥奪などの５つの法を定めたので，1774年にはフィラデルフィアで第１回大陸会議が開催され，植民地人の権利が宣言された。

【独立戦争】 1775年にレキシントン＝コンコードの戦いをもってアメリカ独立戦争が始まった。「我に自由を与えよ，しからずんば死を与えよ。」はパトリック＝ヘンリの有名なセリフだ。第２回大陸会議でワシントンが植民地軍総司令官に任命された。植民地人の態度は独立を志向するPatriots（愛国派）と独立を志向しないRoyalist（忠誠派）と中立派に分かれた。ラ＝ファイエットの友人トマス＝ペインが『コモン＝センス』というパンフレットで“分離”の意義を説いたので，独立を支持する者が増えた。

1776年６月12日のヴァージニア権利章典で人間に本来備わっている社会権が宣言された。

1776年７月４日にトマス＝ジェファソンや避雷針を発明したベンジャミン＝フランクリンが起草した独立宣言が（　40　）でなされた。

1777年のサラトガの戦いを経て78年ベンジャミン＝フランクリンのヨーロッパ派遣によってフランスとの同盟が成立し，79年にはスペインが，80年にはオランダが参戦，同時期ロシアのエカチェリーナ２世が提唱した武装中立同盟が成立して，イギリスの外国船圧迫に対して独立軍を支援することになる。フランスのラ＝ファイエットやサン＝シモン，ポーランドのコシューシコが義勇兵として参加。1781年のヨークタウンの戦いで植民地側の勝利が決定的になった。1783年のパリ条約で合衆国の独立は承認され，ミシシッピ川以東のルイジアナをイギリスは13植民地に割譲，合衆国のニューファンドランドの漁業権とミシシッピ川の航行の自由を承認した。またセネガルと西インド諸島をフランスに，フロリダとミノルカ島をイギリスはスペインに割譲した。（厳密にはヴェルサイユ条約，たいていパリ条約に含める）

この独立革命は絶対主義的政策を封建遺制とともに葬り去ったという意味において，市民革命的性格を持つ。これは西欧諸国やラテン＝アメリカ諸国を刺激した。また史上初の共和制国家の誕生であり，民主主義的憲法の制定を生んだ。

1776～80年にかけて各植民地憲法が成立したが，これにはイギリス本国の権利章典が影響した。合衆国最初の憲法である連合規約は1781年に批准されたが13邦の連合であって各邦には完全主権があったのでアメリカはいまだ国家連合的性格であった。1781～88年にかけてが連合の時代で，戦後の財政困難と経済困難，農民暴動などで憲法制定，中央政府樹立の必要が喚起した。しかし新たに合衆国憲法を制定し連邦政府を創設することは各独立共和国から主権を奪うことを意味した。つまりイギリスから独立した直後の新たな従属を意味したのだ。だから新生アメリカ合衆国は連邦派と反連邦(州権)派に分かれていくことになる。

合衆国憲法は1787年に制定され，正式にU.S.A（合衆国)が成立した。この憲法は世界最初の近代的成文憲法であり，三権分立，人民主権《(　41　)は人民には含まれない》，連邦主義で連邦政府と州政府の２本立てだった。アメリカ連邦議会は各州２名の議員からなり上院下院の二院制だった。

1789年にはワシントンが初代大統領に当選，1800年にはポトマック河畔のワシントンD.C.（ワシントン特別区)が首都に，２代目のアダムズにかけての時代にはハミルトンが代表の連邦主義とトマス＝ジェファソンが代表の反連邦＝州権主義の併用の時代であった。“1800年の革命”でリパブリカン党のトマス＝ジェファソンが第３代大統領に，彼は“アメリカ民主主義の父”と言われる。1800年にナポレオンがスペインに返還させたミシシッピ川以西のルイジアナを1803年にフランスより買収した。また，英仏のナポレオン戦争に中立であったことがアメリカを圧迫したが，これが第４代大統領のマディソンの時の1812～14年の米英戦争の遠因となる。

国内では民主化を推進し，信仰の自由，基本的人権の尊重，西部開拓，奴隷貿易の禁止などを推進した。米英戦争でイギリスからの経済的解放が実現，産業革命の発端となる。

第５代のモンローの1819年にスペインよりフロリダを買収，1823年にはモンロー宣言(教書)を出す。内容は新旧両大陸の相互不干渉。モンロー主義は20世紀にかけての，ヨーロッパにおける戦争への不干渉政策や，ヴェルサイユ条約を批准せず国際連合(ウィルソン提唱)にも加盟しないという外交政策の基調となった。この宣言の根底には，北太平洋におけるロシアの脅威とオーストリアのメッテルニヒのラテン＝アメリカへの介入の脅威がある。

1820年のミズーリ協定では，北緯36度30分で奴隷州，自由州が区分された。

【ジャクソンの時代】　第７代のジャクソンは初の西部出身の大統領でその時代はジャクソニアン＝デモクラシーと呼ばれる民主主義推進の時代。1830年にはイ

ンディアン強制移住法でミシシッピ川以西に強制移住させた。追放された先住民に与えられたミシシッピ川以西の荒地を保留地という。アパッチ族が西へ移動した経路を「涙の道」という。また，大統領選挙戦で勝った党派の者に連邦政府の官職を与え，官職の交代を行うという慣行が生まれた。これをスポイルズ＝システム（猟官制度，党人任用法）という。この頃，アメリカをつぶさに観察し『アメリカの民主政治』を著したのが，アメリカ史研究における重要人物であるフランスの外交官のトクヴィルだ。

このジャクソン派が，現在の民主党につながり，反ジャクソン派が1834年にホイッグ党を結成のちの1854年の共和党へとつながっていく。

【太平洋へ】 1840年代には（　42　）をスローガンに西漸運動が起こる。フロンティア＝スピリット（開拓者精神）による西部開拓だ。

1845年にはポーク大統領の時テキサスを併合，1846年のオレゴン協定でカナダをイギリスと国境調整（北緯49度）。1846～48年の米墨（アメリカ＝メキシコ）戦争でカリフォルニアとニューメキシコを獲得。特に1848年にカリフォルニアで金鉱が発見されたことがゴールドラッシュをもたらしForty-niners（49年組）が登場。1867年にはアラスカをロシアから購入した。ちなみに同年カナダは英連邦の自治領になる。

17 アメリカ合衆国史（南北戦争～第一次世界大戦）

【南北戦争とその後】 植民地建設当初から南北の生活様式・産業の違いが見られたが，1820年代から対立が表面化した。北部は，産業は商工業で貿易政策は保護関税，奴隷制には反対で政治は連邦主義。政党はのちの共和党。南部は，産業はプランテーションで貿易政策は自由貿易主義，奴隷制には賛成で政治は反連邦＝州権主義。政党は民主党。工業生産は北部が81％だった。

奴隷問題の表面化について。1820年のミズーリ協定でミズーリが奴隷州，メイン州が自由州として連邦に加盟。1831年にはギャリソンが『解放者』を発刊。“1850年の妥協”でカリフォルニアが自由州に。ストウ夫人が『アンクル＝トムの小屋』を発表し世論が高まる。1847年にはアメリカ植民協会によりリベリア共和国がアフリカ穀物海岸に建国される。首都はモンローにちなんでモンロビア。

1854年の民主党ピアース政権時のカンザス＝ネブラスカ法がミズーリ協定を破棄し自由州か奴隷州かの決定が今後，住民投票によって決められる内容だったので，これを政争の具として対決するため連邦派が共和党を結党し同法に反対した。

北部産業資本家は奴隷反対論者と提携して保護関税政策に転換したのだ。
【リンカン】 1860年に共和党のリンカンが第16代大統領に当選すると，南部11州は(　43　)を大統領にリッチモンドを首都としてアメリカ連合国を設立，1861年から南北戦争に突入。はじめは北軍不利であったがグラント将軍指揮後有利に，1862年のホームステッド法(定住し開墾した者に無償で土地を与える制度)が出ると西部が北部支持にまわる。

南北戦争は1863年のリンカンによる奴隷解放宣言，「人民の人民による人民のための政治」というゲティスバーグ演説，リッチモンドが陥落を経て北部の勝利で終結した。その５日後にリンカンは南部支持の俳優ブースにより暗殺された。19世紀最大の南北戦争では初めてマスケット銃が使用され，また病死者が戦死者の２倍を数えた。

この戦争の結果として，政治上，連邦の統一が支持された。奴隷は形式的に解放されたが黒人の差別待遇は事実上残存した。1877年を境に戦後復興を監視してきた北部勢力が南部から撤退すると南部は黒人に抑圧的な社会制度を復活させる。その一例が19世紀末から20世紀半ばまで(1964年の公民権法成立まで)南部で続いた黒人隔離政策(学校・鉄道・公衆トイレなど)ジム＝クロウ制度だ。
【第一次世界大戦まで】 1867年の再建法で南部は軍政下に置かれ，黒人選挙権を規定した州憲法と州政府の設立が規定された。1865年結成の結社KKK（クー・クラックス・クラン)が白人優越主義と南部白人の団結を主張した。

北部資本が南部の経済を支配しシェアクロッパー（分益小作人)として地主が土地を細分化し，土地・住居・農具などを彼らに貸与，収穫の２分の１から３分の１を徴収した。小作人には黒人が多かった。

移民の増加に伴い1869年には(　44　)が完成，苦力と呼ばれた中国人移民がその労働力。南北戦争終結から1873年の恐慌にいたる時期を「金ぴか時代」（マーク＝トウェインの造語)という。自由競争(レッセ＝フェール)が激化した時代である。労働運動が展開し1886年サミュエル＝ゴンパーズが主導のAFL（アメリカ労働総同盟)ができたが共産主義ではなくて熟練労働者主体の穏健路線であった。ちなみに1905年にシカゴで不熟練工を組織したのがIWW（世界産業労働者同盟)。

独占資本も形成され石油のロックフェラー家，鉄鋼のカーネギー家，金融のモルガン家など特にトラストが形成，1890年にはそれに対してシャーマン反トラスト法が制定された。コカコーラは1886年にジョージア州アトランタで誕生した。1892年には人民党が独占資本の利益を擁護する共和・民主両党に対抗して中西部・

南部農民により結成されたが，民主党に吸収された。こうしたポピュリズムの動きは，1870年代の農民運動(グレンジャー運動)に端を発する。

フランス革命の百周年に(実際には1886年)フランスから寄贈されたのが，ニューヨーク，ハドソン川の「自由の女神」で左手には学問の象徴，右手には啓蒙(enlightenment)の明かり。ジャーナリストのピュリッツァーが移民に募金を呼びかけた結果できた。

【アメリカ帝国主義】　外交では南北戦争が終了した1865年には，フランスのナポレオン３世のメキシコ介入に抗議，1876年にはロシアからアラスカを買収，1889年にはワシントンでパン＝アメリカ会議を開催して主導権を握る。1890年にフロンティアが消滅したことや経済不況で海外市場拡大の重要性が増したことが帝国主義的政策を助長した。

【共和党マッキンリー】　しかし合衆国は米西戦争までは海外領土の拡大には消極的だった。共和党のマッキンリー大統領はカリブ海政策を展開，1898年キューバのホセ＝マルティの独立運動をスペインが残虐に鎮圧したことがアメリカのマスコミの報道合戦をもたらし，合衆国のキューバでの企業権益の擁護のために，スペインによる「メイン号事件」を口実に米西戦争が開戦，フィリピンでも開戦しパリ条約でアメリカの勝利で終了した。キューバはスペインから独立。アメリカはグアム島，フィリピン，プエルトリコを獲得，またハワイを併合した。合衆国のフィリピン併合の際，スペインから独立宣言をしてアメリカに期待していたアギナルドの反抗に煩わされたので中国進出には遅れをとり，国務長官(　45　)が1899年門戸開放，機会均等宣言，1900年中国の領土保全宣言を出す。キューバには1901年に「プラット修正」を押し付けて事実上，保護国化した。

【共和党セオドア＝ローズヴェルト】　次のセオドア＝ローズヴェルト大統領も共和党で革新主義(進歩主義)を掲げた。産業の独占化と社会的不平等に対して中産階級を中心に自由競争復活や政界浄化などの社会改革を推進した。

軍事力による棍棒外交でカリブ海政策を継承，1903年にはパナマがコロンビアから独立するのを支援した。その見返りにアメリカはのちに1914年に完成するパナマ運河の両側の土地をパナマ政府から租借することになる。こうして1904年にはパナマ運河の建設に着工。また1905年にはドミニカを保護国化した。

東アジア政策としては，ロシアの膨張政策に対抗して日英同盟には好意的。アメリカのユダヤ資本の経済的支援により日露戦争では日本が勝ち，セオドア＝ローズヴェルトはポーツマス条約で調停する。しかし，日本がロシアから獲得した南満州鉄道の共同管理を鉄道王ハリマンが提案したのに対し，一度承諾しながら

も日本の小村寿太郎が拒否したことから日米関係は1906年には深刻なほど悪化した。この年，互いに仮想敵とした建艦競争を開始する。だが1908年の「高平＝ルート協定」ではアジア・太平洋での日米相互の領土の尊重や中国の現状維持が確認された。

【共和党タフト】　次の共和党タフト大統領はドル外交という銃弾に代えるにドルをもって外交する政策を推進。アメリカ製品の輸出と資本投下を奨励した。

【民主党ウィルソン】　1913年就任の民主党ウィルソン大統領は「新しい自由」を唱え，革新主義を推進，関税を引き下げ米製品の海外市場進出を促進した。1914年にはクレイトン反トラスト法で不法通商行為を禁止した。またこの年パナマ運河が完成。ちなみにこれはフランス人レセップスの会社が企画したが失敗したものが建て直されての開通であった。またこの年に第一次世界大戦が勃発したがモンロー主義により中立宣言。同主義の拡大解釈からハイチやメキシコ革命に干渉する宣教師外交を展開，カリブ海地域をアメリカの勢力範囲とする政策を積極化した。

⑱ アメリカ合衆国史(戦間期)

【第一次世界大戦と合衆国】　1915年のフェートン号事件でアメリカ人が死傷したのを背景に1917年にドイツが(　46　)を宣言した。1917年に実際に連合国側の艦船レスター号がドイツにより撃沈され多数のアメリカ人が死亡。さらには，メキシコ軍をテキサスへ侵攻させようとしていることを知ると，アメリカはドイツに宣戦布告して対戦に突入，ウィルソンはかの“十四カ条”（1918)を発表する。「バルフォア宣言」に応じたユダヤ人の資金面でのイギリス支援に呼応したユダヤ国家アメリカ合衆国軍事面での参戦である。

1915年大隈重信が袁世凱に二十一カ条の要求をつきつけ，ドイツの青島(チンタオ)など山東半島の権益を承諾させると1917年アメリカは石井＝ランシング協定でしぶしぶ日本の中国における特殊権益を認める。

1918年にはスペイン風邪が流行し全世界で4000万人の死者(第一次世界大戦全体の戦死者をはるかに凌ぐ)を出した。

【戦間期】　第一次世界大戦の結果債務国から債権国へと転換し，世界経済の中心になる。ロンドンのシティにかわってニューヨークのウォール街が世界金融の中心になる。背景には戦争の犠牲は少なかったこと，復興景気で貿易が拡大したこと，復興資金の海外投資，豊富な国内資源などがある。

経済政策は国内的には自由放任(レッセ＝フェール)主義，対外的には高率関税政策。大衆消費社会が出現,1903年設立のフォード社が1909年に量産方式に成功,これが20年代の普及につながる。1920年にはラジオ放送が開始，また，1920年には婦人参政権，これも大衆社会の一端を担う。ウィルソン政権下の「行動の自由の確保」から上院はヴェルサイユ条約の批准を拒否，孤立主義が受け継がれた。それで，ウィルソンが提唱した国際連盟には加盟しなかった。

【共和党ハーディング】 1921 ～ 23年の共和党ハーディング大統領は“常態への復帰”を唱え，ワシントン会議を提唱，主催。太平洋に関する四カ国条約で日英同盟を破棄させ中国に関する九カ国条約で石井＝ランシング協定を破棄，日本の遼東半島(青島)などの中国政策は後退。海軍軍縮条約で主力艦の比率が，英米日＝５：５：３となった。

【共和党クーリッジ】 1923 ～ 29年の同党のクーリッジ大統領は1924年ドイツ賠償問題でドーズ案を提出，1928年パリ不戦条約を結ぶ。1929年にはフーヴァーがヤング案を提出，また，“永遠の繁栄”を唱えた。

「黄金の20年代」は同時に保守的な時代でもあった。繁栄の裏側に社会的緊張や排外主義が拡大した。北部の都市に住む白人中産階級WASP（白人・アングロ＝サクソン系･プロテスタント)のエリート主義を背景に,社会主義運動家への迫害,(　47　)（イタリア系移民の冤罪事件)が1920年に起きた。この事件はロシアのボリシェヴィキ革命(1917)の影響や無政府主義思想などが移民を通して持ち込まれることに過敏に警戒する当時の空気を反映していた。1919年の禁酒法がマフィアの暗躍を招き，黒人差別問題から結社KKKも復活した(1915)。

1923年の関東大震災においては復興を支援しつつ日本を視察し，1924年には排日移民法で反日を明らかにした。中国人排斥法(1882)と日本人に対しては日米紳士協約(1907)で既にほとんど扉は閉ざされていた。ちなみにユダヤ人のアメリカ移民も制限されたので，パレスチナに流入することになる。1929年に世界恐慌が起きると，翌30年には「スムート＝ホーリー関税法」で日本の1000品目の輸出品に対して高関税を課した。

【共和党フーヴァー】 1929年に10月24日木曜日，ニューヨーク，ウォール街の株式市場の株価が大暴落，金融恐慌は商工業に波及しさらに農業の不景気と結合して1000万人以上の失業者を生んだ。

自由放任政策が独占資本を発達させ，産業の合理化や過剰な設備投資によって生産過剰に陥ったこと。農業の機械化によって農産物の生産過剰になって自作農が没落，購買力も低下したので国内市場が縮小したこと。大戦後のヨーロッパの

復興とソ連の社会主義化に伴う市場からの離脱。諸外国の高関税政策などが金融恐慌の原因とされる。

世界各国の経済がアメリカ経済に依存していたので世界恐慌となる。1932年までに世界の工業生産は半減，物価は３分の１に下落，失業者は全世界で3500～5000万人。ロンドン世界経済会議も失敗。

フーヴァー大統領は共和党の基本政策どおりの自由放任を主張したので恐慌は拡大。それで戦債・賠償支払いに関してはフーヴァー＝モラトリアムを出して１年間延期することにした。

【民主党フランクリン＝ローズヴェルト】 民主党のフランクリン＝ローズヴェルトが1933年から大統領に。経済学者マルクス的な修正資本主義，ニューディール政策を採用。reformation（改革），recovery（回復），relief（救済）の３Ｒ政策がスローガン。

具体的政策内容としては，農業の生産統制や農産物価格の引き上げをもくろむ農業調整法（ＡＡＡ）。生産統制による需給バランスの回復と有効需要（購買力）の上昇のための賃金の上昇と労働者の団結権と団体交渉権，最低賃金の保障などをもくろむ全国産業復興法（ＮＩＲＡ）。これらは1935年に連邦最高裁判所で違憲判決。ただし労働条項だけを切り離して（　48　）で労働者の団結権と団体交渉権を承認した。ＡＦＬから脱退し不熟練工を組織したＣＩＯ＝産業別組織会議が1938年にルイスにより成立した。金融恐慌対策としては1934年に管理通貨制に。失業者救済として1933年のテネシー川流域開発公社ＴＶＡなど。弱者救済として社会保障法が成立したのは1935年。

対外政策としては，経済進出に重点を置く善隣外交。1933年にソ連を承認，またウルグアイの首都モンテビデオにおける第７回パン＝アメリカ会議で国務長官ハルが善隣外交を表明。1934年にはキューバの独立を承認，フィリピン独立法で10年後の独立を約束。1935年には中立法。ニューディール政策は1937年の新たな恐慌で失敗。結局，景気回復は第二次世界大戦の開始による。独ソ戦開始の1941年，議会は武器貸与法を可決しアメリカは以後完全に孤立外交を放棄する。

日本はヨーロッパが戦場になっていた第一次世界大戦の時期，明治以降の太糸厚地布部門のほかに，新たに細糸薄地布部門つまりイギリスが東南アジアに売っていた紡績部門に進出したことにより，日英貿易摩擦が始まり結果として1922年に日英同盟が破棄された。1929年の「世界恐慌」ののち「スムート＝ホーリー関税法」で30年代にアメリカ市場からの締め出しが始まると，日本はイギリス領の東南アジアに本格的に売り込みを開始し，日英貿易摩擦が深刻な問題になる。イギ

リス首相チャーチルは，1940年代になると本格的にアメリカのフランクリン＝ローズヴェルトに対日戦を迫るようになる。そのような背景の中で，英米は日本と戦闘状態にある蔣介石援助を長期間にわたり共同で行った。蔣介石の妻は後の1943年のカイロ会談で通訳をした浙江財閥の娘，宋美齢だ。1939年６月に日本軍が天津のイギリス租界を封鎖するという事件が起きると，７月アメリカは日米通商航海条約の破棄を宣言し，この条約は1940年１月に失効してしまう。

1939年９月１日，第二次世界大戦勃発。1940年９月23日に日本が北部仏領インドシナに侵攻した４日後の27日に日独伊三国同盟が成立した。日本はアメリカの参戦を回避するため，外相松岡洋右の締結した日独伊三国同盟にソ連を引き込んだ四国同盟を模索したが，1941年に独ソ戦つまりドイツがソ連に攻め込んでそれは幻に終わった。

アメリカは1940年７月から1941年１月まで相次いで日本への輸出を制限した。７/26には日本との一切の取引を統制下に置き日本人の在米資産までも凍結してしまった。また７/28日本が石油地帯で太平洋への軍事拠点である南部仏領インドシナに侵攻したことから，フィリピン防衛のため８/１アメリカは石油の禁輸を発表した。当時の日本は天然資源の80％をアメリカに依存していた。日本の駐米大使は仏領インドシナ以外には侵攻しないから禁輸を解くよう頼んだ。８/14には人民憲章がチャーチルとフランクリン＝ローズヴェルトにより発表された。言論・表明の，信教の，恐怖からの，欠乏からの「四つの自由」をローズヴェルトは発表した。

1941年11/26に国務長官コーデル＝ハルがいわゆるハル＝ノートをつきつけた。その内容は日本に以下のことを要求するものだった。

◇三国同盟破棄◇重慶の蔣介石政権のみを正統とせよ。つまり日本の傀儡政権，(　49　)の南京国民政府は無視し，満州から撤退せよ。◇仏領インドシナから撤退せよ。これが石油の禁輸解除の条件だった。

これは夏以前の交渉でのアメリカの主張に比べ格段に強硬なものであった。アメリカ側からすれば日米関係を改善するために必要事項を列挙したのがこの項目である。東条英機内閣はこれをアメリカからの最後通牒と受け止め，12/１の御前会議で開戦を決める。そして1941年日本時間12/８ａ．ｍ１：30英領マレー半島に上陸，ａ．ｍ３：19にハワイの真珠湾攻撃がなされた。戦艦アリゾナなどを撃沈，米兵の死者は2343人，不明者は916人。日本側の損害は29機だった。

⑲ 戦後アメリカ合衆国史

【民主党トルーマン】 1945年４月12日，フランクリン＝ローズヴェルトの死で副大統領から昇格したのが民主党トルーマンだ。外交問題では７～８月にポツダム会談に出席し，戦後の1947年には封じ込め政策，いわゆるトルーマン＝ドクトリンこれはギリシアとトルコの共産化を阻止するため。そして国務長官による欧州復興のプランがマーシャル＝プラン。労働問題としては1947年，大統領の反対をおしきってタフト＝ハートレー法が議会により成立し，労働組合幹部は非共産党員であることを宣誓することになった。1935年のワグナー法以後の労働運動の権利にブレーキがかかった。イスラエル共和国を建国してユダヤ票をとりこみ1948年大統領に再選されると，ニューディールの小型版のフェアディール政策を実施。つまり全体の風潮としては反共，しかし政策的にはニューディール的計画主義の継続。1949年には低開発諸国技術援助計画（ポイント＝フォア）を発表。冷戦下の反共ヒステリーで，1949年のソ連の原爆実験成功を受けて，マッカーシー旋風の赤狩りが吹き荒れ，1950年原爆設計スパイ容疑でローゼンバーク夫妻が処刑される。『怒りの葡萄』で世界恐慌期の農民を描いた（　50　）も共産主義者と疑われ不遇の晩年を送った。

【共和党アイゼンハワー】 1952年の選挙で朝鮮戦争終結を公約に当選したのが共和党アイゼンハワーで，彼は1944年６月６日のノルマンディー上陸作戦の英雄。ワルシャワ条約機構が成立した1955年に外交ではジュネーヴ４巨頭会談，メンバーはアイゼンハワー，ソ連のブルガーニン，イギリスのイーデン，フランスのフォール。1957年のスプートニック＝ショックから“恐怖の均衡の時代”を迎える。国務長官（ジョン＝フォスター）＝ダレスのもとで巻き返し政策を展開した。ＣＩＡ＝中央情報局（アレン＝ダレスが長官）の活動が活発化した。ソ連に接近し1951年に石油国有化法を出したイランのムバラク政権転覆は初のＣＩＡによるクーデタ工作で親米のパフレヴィー２世を復権させた。

1955年にはアラバマ州都モンゴメリで黒人女性への乗車拒否に端を発する（　51　）。いよいよ公民権運動の時代に入る。キング牧師が活躍する時代がやってきた。

1956年の第２次中東戦争に即時停戦決議案提出。1959年ソ連のフルシチョフとキャンプ＝デーヴィッド会談。しかしながらアメリカがポラロイド社のカメラで高度2400ｍからソ連を撮影した1960年のＵ２型機事件が雪どけのムードに水をさす。

軍産複合体の巨大化に警鐘を鳴らしたのもアイゼンハワーだ。

【民主党ケネディ】 1961～63年は民主党アイルランド系のケネディ大統領。1960年の選挙でニューフロンティアを掲げてニクソンを破った初のカトリック教徒の大統領である。

1961年にはベルリン問題でソ連のフルシチョフとウィーンで会談。進歩のための同盟を提唱しラテン＝アメリカ諸国の開発を援助することを表明。共産主義浸透阻止が目的であるが，ベトナム戦争で余力がなくなる。1960年にベトコン（南ベトナム解放民族戦線）が結成されたのを機にドミノ理論を根拠に特殊部隊をベトナムに派兵。国内では黒人の公民権運動が高まる。背景には奴隷解放宣言百周年がある。

1962年のキューバ危機においてはソ連のフルシチョフと果敢に対決しソ連のミサイル基地を撤去させた。その条件がケネディの「アメリカは将来，キューバに侵攻しない」という譲歩だったので，亡命キューバ人そして右翼に深い怨念を生んだ。1959年のキューバ革命後，キューバからフロリダ州に亡命してきた反革命勢力をＣＩＡは支援していたのだ。

話を戻そう。1959年キューバの親米バティスタ政権はカストロとアルゼンチン人チェ＝ゲバラにより打倒され，のちカストロは社会主義宣言しソ連に接近，その際，キューバにソ連のミサイル基地設置を許可する。1961年にアメリカのＣＩＡ（アメリカ中央情報局）とアイゼンハワー政権を受け継いだケネディ政権は亡命キューバ人をカストロ暗殺のためにキューバのピッグズ湾に上陸させたが作戦は失敗した。1962年，ケネディ政権はキューバにソ連のミサイル基地があることに気づきソ連に抗議，ソ連船を大西洋で臨検する（キューバ危機）。

【民主党ジョンソン】 1963年11月カリフォルニア州ダラスでケネディが暗殺され，副大統領のリンドン＝ジョンソンが昇格。1964年の選挙で再選された。

外交では1964年のトンキン湾事件をきっかけに1965年北爆を開始しベトナム戦争に本格介入。1968年のベトコンによるテト攻勢（テトとはベトナムの旧正月）による大敗北を機にパリ和平会談。

内政では，（　52　）をスローガンに極端な平等化政策を展開。1964年の公民権法などケネディ政権が着手した法案が議会を通過。この頃ベトナム反戦運動や黒人解放運動が急進化。1968年にはキング牧師暗殺事件も起きる。

ちなみに，この1968年にはパリで五月革命，チェコでは「プラハの春」と激動の時期であり，アメリカでも反戦運動，ウーマンリブ，ポルノ解禁とポピュリズム（人民主義）が爆発，ベトナム帰還兵の麻薬中毒などの社会問題も顕在化。日本で

も学生運動がピークを迎える。これら「カウンター＝カルチャー」は，モードつまり「型」にはめ「大きな物語」で世界を描くモダニズム（近代合理主義）の超克，つまりポスト＝モダンへの「意識の交替」の事例である。

【共和党ニクソン】　1968年の選挙はケネディの暗殺などで民主党が分裂，法と秩序をスローガンに共和党ニクソンが当選。特別補佐官はハーバード大学のキッシンジャーが就任。1973年には国務長官に。1969～70年にはニクソン＝ドクトリンを出して「ベトナム戦争のベトナム化」つまりベトナム戦争から手を引くことを宣言。1970年にはカンボジアに侵攻してロン＝ノル政権を樹立。1973年のジュネーヴ協定でベトナム戦争から手を引く。サイゴン陥落は1975年。

1970年代には貿易赤字に転じ，1971年８月金＝ドル交換停止の新経済政策を発表。これがニクソン＝ショックでこうしてブレトン＝ウッズ体制は終焉。アメリカへの信頼低下が背景にある。

ブレトン＝ウッズ体制とは何か。

1944年７月，連合国がアメリカでブレトン＝ウッズ会議を開き，世界恐慌後のブロック経済を第二次世界大戦の元凶とし，ドルを基軸通貨とする（金１オンス＝35$）自由貿易体制構築を企画した。経済学者ケインズが出席。ＩＭＦ（国際通貨基金）とＩＢＲＤ（国際復興開発銀行＝世界銀行）設立を決定。

【ニクソン訪中】　国際連合の安全保障理事会の常任理事国を中華民国（台湾）から中華人民共和国に変更しつつ1972年には北京を訪問。これは前年のキッシンジャーの根回しの結果だ。キッシンジャーはロックフェラー家の番頭と呼ばれている。つまりニクソン政権は中国を冷戦の敵としてではなく市場や生産拠点としようと思ったのだ。ベトナム戦争の泥沼に「アメリカの自信」を回復させるためのカンフル剤が中華人民共和国という市場の開拓というわけだ。また，ソ連でＳＡＬＴ（戦略兵器制限交渉）－Ｉに調印。

国内では（　53　）年にはアポロ11号が月面着陸に成功。1972年の大統領選挙で，民主党本部に盗聴器を仕掛けるウォーターゲート事件に関与し，結局1974年に辞任した。

【共和党フォード】　1974年，ニクソン辞任に伴い副大統領より昇格したのがフォード。1975年にはヤルタ体制を確認するフィンランドのヘルシンキでの宣言は，全欧安保協力首脳会議の時のことだ。

【民主党カーター】　1977～81年は南部出身の民主党カーター大統領。人権侵害のある国にそれの改善を条件に信頼醸成と経済援助をしてゆく人権外交を展開。1977年のパナマとの新運河条約，トリホス＝カーター条約で1999/12/31の返還を

約す。1978年にはエジプトのサダトとイスラエルのベギンとキャンプ＝デーヴィッド会談。結果イスラエルはシナイ半島から撤退。1979年には中華人民共和国と国交正常化。1979年ＳＡＬＴ－Ⅱ調印。

しかし，1979年のイラン革命において，テヘランのアメリカ大使館員人質救出作戦に失敗。カーターに関しては“アメリカ史上最も無能な大統領”との評価も生まれる。

さらには1979年12月，イラン革命にてイスラームの脅威を痛感したソ連のブレジネフ政権が共産主義者援助を名目にアフガニスタンに侵攻。また中米のニカラグアにはサンディニスタ左翼政権誕生を許してしまう。デタントから第２次冷戦へ。翌80年のモスクワ＝オリンピックを西側がボイコット。1984年のロサンゼルス＝オリンピックはその逆で東側がボイコット。

【共和党レーガン】　1981年からがレーガン。レーガンの内政スローガンは小さな政府であるが，これは，1930年代のニューディール以来の経済学者ケインズ流の大きな政府つまり面倒見のよい政府路線ではなく，市場原理の復活により社会に活力を入れるもので，シカゴ大学のハイエク流の新自由主義。つまりイギリスのサッチャリズムがレーガノミクスのモデルである。

また，1985年の（　54　）でドル安政策によりアメリカ経済への不信が高まる。貿易，財政の双子の赤字の時代である。

レーガンの外交スローガンは強いアメリカ。1983年にはカリブ海のグラナダに侵攻し共産化を阻止。ＳＤＩ（戦略防衛構想）を出す。ニカラグアの右翼ゲリラ“コントラ”を援助，これはイラン＝イラク戦争時に，イラン革命の際の人質となった大使館員の解放と引き換えにイランに武器を売却，その資金で援助したからできたことなのだ。（1986 ～ 87年）

1981年から89年は新自由主義といわれる保守回帰の時代。サッチャー・レーガン・中曽根康弘ら社会に活力を注入する攻撃的保守の時代だった。

1985年から，ジュネーヴとレイキャビクでの米ソ首脳会談を経て，1987年ゴルバチョフが訪米，ＩＮＦ（中距離核戦力）全廃条約が締結された。

【共和党ブッシュ】　副大統領から選挙で当選したのが，ブッシュであり1989 ～ 93年まで務めた。1989年には環太平洋18カ国による“ＡＰＥＣ”アジア太平洋経済協力会議開催。同12月マルタ会談で冷戦終結。またパナマへ侵攻し麻薬王ノリエガを逮捕した。

1990年８月イラクのサダム＝フセイン大統領のクウェート侵攻から湾岸危機，翌1991年湾岸戦争に。多国籍軍を結成して，中東においてアメリカの存在感を示

す。同時に世界はハイテク戦争の時代に突入した。

1991年ＳＴＡＲＴ戦略兵器削減交渉－Ｉ調印。1992年にはソマリアへ派兵。

【民主党クリントン】 1993年からは民主党クリントン大統領。

1993年ホワイトハウスでイスラエルのラビンとＰＬＯのアラファトとの間にイスラエルがガザ地区とヨルダン川西岸地区（ウエストバンク）の都市イェリコにおけるパレスチナ人による暫定自治を合意。「オスロ合意」は，平和裏にパレスチナ問題を解決する方法論を表明したものである。

1993～94年ソマリアの国連平和執行部隊は大失敗。

1992年カナダ，メキシコと北米自由貿易協定“ＮＡＦＴＡ”を調印。翌1993年ＳＴＡＲＴⅡ調印。1994年ＫＥＤＯ（朝鮮半島エネルギー開発機構）の枠組により北朝鮮に軽水炉や原子力発電所の開発援助と交換条件で核開発を断念させた（はずだった…）。

1994年対ベトナム経済制裁終了し1995年国交回復。ボスニア和平合意。1996年には，（　55　）。これは潜在的な核開発能力を持つとされた44カ国の署名・批准が発効の要件。うち採択後の1998年に核実験に踏み切ったインドとパキスタンや北朝鮮・中国・米国も未批准である。

インドとパキスタンは2019年に再びカシミール地方で衝突している。アメリカは両国に経済制裁，しかし，2001年９月に解除した。

【共和党ブッシュ】 なぜなら，2001年９月11日にブッシュ政権のニューヨーク世界貿易センターと国防総省ペンタゴンに「同時多発テロ」が起きたので，ビン＝ラーディンが資金援助しているターリバーン政権打倒のためパキスタンを味方に引き込むためである。

2003年には「予防的先制」から大量破壊兵器開発の疑いをぬぐえないイラクのサダム＝フセイン政権を崩壊させた。（イラク戦争）2005年にはハリケーン「カトリーナ」に見舞われ，ミシシッピ川があふれニューオリンズが浸水した。

2006年にはイラク戦争の失策により国防長官ラムズフェルドが更迭された。

【民主党オバマ】 イラクからの撤退とアフガニスタン政策の強化が課題の政権となった。「世界の警察官」をアメリカがやめると宣言したことが中露の台頭を招く。

2016年，キューバとの間の歴史的な国交回復が実現した。

【共和党トランプ】 北朝鮮と激しく対立。イラン核合意は破棄。中国と貿易戦争。ロシアとのＩＮＦ全廃条約を破棄。イェルサレムおよびベッカー高原をイスラエル領だと宣言した。

20 戦後西ヨーロッパ史

【戦後イギリス史】　第二次世界大戦終結時のイギリス首相。ドイツが降伏した時は挙国一致内閣のチャーチル。しかし７月のポツダム会談の最中の選挙で労働党アトリーに敗北した。戦争中の1942年に，議会に（　56　）が出され「ゆりかごから墓場まで」の社会保障構想が前面に出たからだ。戦後イギリスは福祉重視の社会主義的でケインズ（代表作は1936年の『雇用・利子および貨幣の一般理論』）流の大きな政府を選択した。面倒見のよすぎる政策は自助努力をしないイギリス国民（英国病）を産み出した。

1952年には再登板した保守党チャーチル政権下で原爆実験。

1979年に首相に就任した保守党の鉄の女サッチャーはハイエク（1974年のノーベル経済学賞）流の自由競争の小さな政府路線に転じ，民間部門に多くを移譲し民間活力で英国病を克服しようとした。アルゼンチンとのフォークランド戦争では占拠されたフォークランド諸島を取り返した。

1991年の湾岸戦争の時が保守党メージャー首相。

次の労働党ブレアは競争原理と福祉主義を両立させる第３の道を模索した。

1999年にはセルビアのコソヴォ侵攻の制裁として，米クリントン大統領とベオグラードを空爆。2003年のイラク戦争では米ブッシュ大統領とサダム＝フセイン政権を打倒したが2005年にロンドン地下鉄テロという報復をイスラーム原理主義者にお見舞いされた。2018年にはＥＵからの離脱を問う国民投票が実施された。

スペインでは1975年にフランコが死にブルボン朝が復活した。ポルトガルでは1974年にサラザール政権が崩壊した。

【戦後ドイツ史】　戦後のドイツ民主共和国（1949～89）の政治指導者はウルブリヒトとホネカーの２人。首都は（東）ベルリン。

ドイツ連邦共和国（1949～）は首都がボンで首相はベッケンバウアー（CDU）→エアハルト（CDU）→キージンガー（CDU）→ブラント（SPD）→シュミット（SPD）→コール（CDU）→シュレーダー（SPD）→メルケル（CDU）。

CDUキリスト教民主同盟はビスマルクと対決した中央党が母体。西ドイツの1955年のNATO（北大西洋条約機構）加盟を受けて，SPD社会民主党は1959年のバート＝ゴーデスベルク綱領でマルクス主義と訣別し階級政党から国民政党に脱皮，これが1966年のCDUとSPDのキージンガー大連立を可能にする。

ブラントといえば東方外交。新たな市場開拓のために東欧諸国との関係改善に

尽力，ワルシャワの（　57　）（ナチス時代のユダヤ人居住地区）跡にひざまずき謝罪，ポーランドに対しオーデル＝ナイセ川を国境線にすることを再確認した。1972年に東西ドイツ基本条約。仲良く国際連合に加盟。ということはドイツ分断体制つまりヤルタ体制が確認された。1975年の全欧安保協力首脳会議でも同体制が再確認された。

21 フランス史（第二帝政～第五共和政）

【第二帝政　1852 ～ 70】軍事力を背景にしたナポレオン３世の独裁政治をボナパルティズムという。特徴は人気取り政策。

海外侵略し市場を確保し産業資本家にゴマをすりつつ，「馬上のサン＝シモン」のあだ名よろしく労働者向けの政策を連発し，ナポレオン法典に沿って土地所有権を保証し農民を安心させ，皇帝という肩書どおりカトリック教会の支持を確保した。

ナポレオン３世の侵略先。①聖地イェルサレム管理権からクリミア戦争
②イギリスと共に清とアロー戦争③仏越戦争でコーチシナとカンボジア獲得④イタリア統一戦争に関わりサヴォイアとニース獲得⑤メキシコ出兵

1869年にレセップスがスエズ運河開削。

1870年，プロイセン＝フランス（普仏）戦争のスダンの戦いでビスマルク（プロイセン王国）に敗れ退位。

【第三共和政　1870 ～ 1940】　プロイセンにアルザスとロレーヌを奪われた。しかもヴェルサイユ宮殿「鏡の間」でドイツ帝国の建国式典が開催される屈辱。

この1871年に武装解除に応じないパリ市民が初の労働者による政権であるパリ＝コミューンを72日間にわたりつくった。「石割」で農民を描いた自然主義の画家クールベも参加したが，ティエールの臨時政府とプロイセンに鎮圧された。

第三共和国憲法は1875年に制定された。三権分立・二院制・男子普通選挙。小党分立で政情不安が続く。敗北主義の第三共和国で起きた対独強硬派の軍人クーデタ未遂事件がブーランジェ事件。ユダヤ人冤罪事件が1894年のドレフュス事件。作家ゾラは「私は弾劾する」という声明文を発表した。この事件はシオニズム運動のきっかけになる。

1901年にはクレマンソーなど進歩的共和派が大同団結して急進社会党が結成された。1905年の政教分離法で，教育の世俗化・国家と教会の分離が完成した。

社会主義が台頭し1895年にフランス労働総同盟が結成された。議会主義を否定

する直接行動による革命を主張するサンディカリズムの傾向が強かった。

1905年には(　58　)を指導者に社会党が結成された。

第一次世界大戦でフランスは列強中最大の損害を被る。ロシア革命でソヴィエト政権が債務破棄宣言をしたので経済苦境に陥りドイツに対する敵愾心がつのる。1917～20年のクレマンソー内閣はヴェルサイユ条約で過大な賠償請求を貫徹，1922～24年のポワンカレ内閣ではルール占領を強行した。

1924年に成立した左翼連合内閣，急進社会党のエリオ内閣のもと外相ブリアンは対独協調路線に転じ，アメリカのドーズ案を受けてルールから撤退した。1925年のロカルノ条約で協調ムードが高まり，アメリカ国務長官ケロッグとの協定をベースに1928年にパリ不戦条約が結ばれた。

世界恐慌対策には遅れをとり1933年にはロンドン世界経済会議でフラン＝ブロックの結成を決定した。1933年ドイツにヒトラー政権が誕生，フランスはソ連の国連加盟を仲介，フランス知識層は反ファシズムになびく。代表として，『狭き門』のアンドレ＝ジイド，『ジャン＝クリストフ』のロマン＝ロラン，ラジウムの発見者キュリー夫妻など。

第７回コミンテルン大会で採択された戦術に基づき社会党・急進社会党・共産党で人民戦線を結成，社会党レオン＝ブルム首班の人民戦線内閣が成立したが統制経済の失敗と共産党と急進社会党の対立で崩壊，急進社会党のダラディエ政権になりミュンヘンでヒトラーに宥和政策。

1940年６月14日にパリが陥落。７月にはナチスの傀儡政権ペタン首班のヴィシー政府が誕生し第三共和政が崩壊した。ド＝ゴールはロンドンに自由フランス政府をつくり抗戦を呼びかける。1944年６月６日連合軍がアイゼンハワーを総司令官にノルマンディーに上陸し８月にパリが解放される。レジスタンスに参加した共産党も参加した臨時政府から1946年の第四共和政成立にかけては共産党や社会党が優位でド＝ゴールははじき出された。

【第四共和政】　マンデス＝フランス首相時の1954年のジュネーヴ協定でインドシナ戦争が終結。入れ替わりアルジェリアの独立運動が激化した。フランス人植民者(コロン)が頑強に抵抗しアルジェリア駐留フランス軍も反乱を起こしたので，それを収拾するために憲法を改正し大統領権限を強化してド＝ゴールが再登場した。

【第五共和政】　1958年成立→1961年初の原爆実験→1962年エヴィアン協定でアルジェリア独立→1964年中華人民共和国を承認→1966年NATOの軍事機構から脱退→1968年五月革命。反ド＝ゴールの学生・インテリ・労働者の運動。実存主

義の(　59　)と連れ合いのボーヴォワールが精神的指導者。

ド＝ゴール主義とは反アングロ＝サクソンつまり反英米。イギリスを「アメリカのトロイの木馬」と呼んでイギリスのＥＥＣ(ヨーロッパ経済共同体)加盟を拒否した。だからイギリスはＥＥＣに対抗するために，1960年にＥＦＴＡ(ヨーロッパ自由貿易連合)をつくったが1984年から徐々にＥＣとの統合が進んだ。

1980年代は社会党ミッテラン政権。パリ市長シラクと保革共存政権(コアビタシオン)。1995年からシラクが大統領。ド＝ゴール主義者のシラクはCTBT（包括的核実験停止条約)調印直前にタヒチのムルロワ環礁で核実験。

タヒチは後期印象派の画家ゴッホが描いた島だ。

2009年サルコジ大統領はイスラーム教徒の女性のヘジャブ(頭を覆う布)禁止を政教分離法(1905)を根拠に宣言し物議をかもした。

シューマンはルクセンブルク出身のフランス外相。インナーシックスとはシューマン＝プラン(1950)によるＥＣＳＣ(ヨーロッパ石炭鉄鋼共同体)，ローマ条約(1957)によるＥＵＲＡＴＯＭ(ヨーロッパ原子力共同体)，ＥＥＣ(ヨーロッパ経済共同体)そして1967年のＥＣ(ヨーロッパ共同体)の原初加盟６カ国西ドイツ・フランス・イタリア・ベルギー・オランダ・ルクセンブルクである。拡大ＥＣは1973年イギリス・アイルランド・デンマーク，81年ギリシア・86年スペイン・ポルトガルが加盟。2004年には旧東欧共産圏諸国やバルト３国がＥＵに加盟した。

そのＥＵ(ヨーロッパ連合)とは，1992年のマーストリヒト条約の翌年に発足した組織である。

22 東欧史

第二次世界大戦後東欧各国はソ連の衛星国として，共産党一党独裁の人民民主主義という体制を選択した。

参考までに，自由競争という経済システムを採用する体制を自由民主主義。

自由競争が基本だが国家による介入の度合がかなり高いシステムを採用する体制を社会民主主義という。

【チェコスロヴァキア史】　西スラヴ系のチェック人とスロヴァキア人が合体しモラヴィア王国(830 ～ 903)が成立したがマジャール人の侵入で滅亡した。

14 ～ 15世紀ルクセンブルク家が支配したが16世紀からの300年間はハプスブルク家が支配した。フス派のベーメン住民(フーシテン)の蜂起がフス戦争(1419 ～36)。ベーメンの反乱をきっかけに三十年戦争(1618 ～ 48)になった。

1848年６月にパリ二月革命の影響でチェック人の民族運動が起きた。対オーストリア・チェコ民族主義運動の先駆だ。対ドイツ人・対マジャール人目的でプラハで開催されたパラツキーを議長とするスラヴ民族会議は実を生まなかった。第一次世界大戦後西部のボヘミア(ベーメン)と東部モラヴィアからなるチェコ共和国とスロヴァキア共和国を併せて人工国家チェコスロヴァキアとなり，サン＝ジェルマン条約で正式にオーストリアから独立し1918年に(　60　)を大統領に建国された。

フランスと提携しハンガリーのホルティ独裁政権に対抗するためにユーゴスラヴィア・ルーマニアと共に小協商国(1920～39)を形成していた。ベネシュ大統領の1938年から39年にかけてナチス＝ドイツがチェコを併合しスロヴァキアを保護国化した。

1948年にマーシャル＝プラン受け入れを決定したことからソ連の介入によるチェコスロヴァキア＝クーデタとなり一夜にして共産党の一党独裁体制になった。人民民主主義共和国となり1960年に社会主義共和国となった。

1968年に検閲廃止・複数政党制などを要求する「人間の顔をした社会主義」をスローガンとしたいわゆる「プラハの春」運動となる。ノボトニーが失脚し(　61　)による自由化民主化政策が施行される。しかしソ連指導のワルシャワ条約機構軍(ルーマニアは不参加)が軍事介入し自由化は阻止された。

フサーク政権(1969～87)は対ソ関係を正常化した。1977年に劇作家のハヴェルが「憲章77」という人権擁護宣言を起草し「人間の顔をした社会主義」を訴えた。ヤケシュ政権は経済改革と民主化を目指すが1989年にゼネストが起きて辞任。ドプチェクが復権した。

ベルリンの壁崩壊に連動しジャスミン革命となり市民フォーラムが形成された。初の非共産党大統領ハヴェル政権となった。1993年にはブラチスラバを首都とするスロヴァキアと分離した。

【ハンガリー】　ウラル語族マジャール人はフンとアヴァールが合体して生まれた。955年のレッヒフェルトの戦いでオットー１世に敗れるが10世紀末にハンガリー王国が成立し11世紀にキリスト教化した。15世紀のマーチャーシュ１世が最盛期だったが，ラヨシュ２世が1526年のモハーチの戦いでオスマン帝国のスレイマン１世に敗れた。

パリ二月革命の影響で1848年にマジャール人の民族運動となり1849年コッシュートが共和国宣言をしたがロシアとオーストリアに鎮圧された。1866年のプロイセン＝オーストリア戦争の結果オーストリア＝ハンガリー帝国となりフランツ＝

ヨーゼフ１世が皇帝を兼任した。

1919年のハンガリー革命でオーストリアから独立，1919年の３月から８月までベラ＝クン指導のソヴィエト政権となったが，フランスが支援したルーマニア軍の介入で崩壊した。1920年からハンガリー王国となり摂政ホルティの独裁政権の時代となる。同政権は1932年から親独政策をとった。

第二次世界大戦後の1946年にソ連の衛星国のハンガリー共和国となり1949年に人民共和国宣言した。

フルシチョフによるスターリン批判の1956年には首都ブダペストで非スターリン派のナジ＝イムレが一党独裁の廃止・ソ連の撤退・ワルシャワ条約機構からの脱退を掲げ反ソ暴動を指導する。ソ連が軍事介入しナジは処刑された。ブダペストの街には今も弾痕が残っている。

1956 ～ 88年のカダル政権時には経済を開放し西側の技術を導入する現実主義的政策をとった。

ベルリンの壁崩壊の直接のきっかけは，オットー＝ハプスブルクの提案をネーメト首相が受け入れソ連のゴルバチョフの許可を得てオーストリアとの国境の鉄条網を切ったことだ。東ドイツ市民がハンガリーから西側へ流出したので東ドイツ政府が壁開放に踏み切ったのだ。ハンガリーは1989年に複数政党制に移行し，ハンガリー共和国となった。

【ルーマニア】　ルーマニア語でロムニアは「ローマ人の住む地」。五賢帝のトラヤヌスがダキアを攻略しローマ帝国領土最大。首都はブカレスト。

クリミア戦争（1853 ～ 56）のロシアの敗北の結果，モルダヴィア公国とワラキア公国からなる連合公国となりカロル１世が国王となった。1878年の露土戦争のサン＝ステファノ条約で独立承認，ベルリン会議で列強が独立を承認した。

第１次バルカン戦争では中立，第２次バルカン戦争では反ブルガリアで南ドブルジアをブルガリアから獲得した。第一次世界大戦では連合国側で勝利し，ベッサラビア・トランシルヴァニア・バナート・ブコヴィナからなる大ルーマニアが形成された。第二次世界大戦では同盟（枢軸）で鉄衛団のファシズム政権が支配した。トルコにベッサラビアをハンガリーにトランシルヴァニアを奪われた。1947年に人民共和国宣言，1965年には社会主義共和国。1967年には西ドイツと国交を回復し自主路線。1974年からは（　62　）による独裁路線。貿易赤字解消のために電力を制限し国民に耐乏生活を強いる。避妊を禁止したのでエイズ蔓延とストリートチルドレンを生み出した。

1989年のベルリンの壁崩壊と連動し，（　62　）夫妻は処刑された。

【ブルガリア】 トラキア人の地にスラヴ人が南下しそこにトルコ系のブルガール人が移住しブルガリア王国が形成された。ボリス１世がギリシア正教に改宗シメオン１世時が全盛。11 ～ 12世紀にはビザンツ帝国が支配。独立したが14 ～ 20世紀にはロシア帝国に従属した。

1908年の青年トルコ革命を契機に独立。

パン＝スラヴ主義のバルカン同盟の一員として第１次バルカン戦争でトルコと戦い領土を拡大するが，これが災いして第２次バルカン戦争ではバルカン同盟に攻められ結局ドイツ・オーストリアに接近し第一次世界大戦には同盟国側で参戦する。敗北しヌイイ条約でトラキアを失う。第二次世界大戦では枢軸国側で参戦した。

1946年に人民共和国宣言。首都はソフィア。ディミトロフが指導する共産党が権力を掌握。

1989年にジフコフが退陣し民主化した。

【アルバニア】 1912年第１次バルカン戦争中にオスマン帝国から独立宣言，1913年に完全独立。1926年にムッソリーニ政権のイタリアが保護国化し外交権を奪い，1939年に併合し植民地化した。1946年人民共和国宣言。独立の父はホジャ。対ソ断交コメコンを脱退し，ワルシャワ条約機構脱退し独自路線，中国へ接近しかしのちに断交。事実上鎖国し，世界唯一の無神論国家を宣言。1989年には東欧民主化の影響でアリア政権が自由選挙・複数政党制に移行した。

【ポーランド】 10世紀のポーランド王国ではミェシュコ国王がカトリックを受容した。ピアスト朝のボレスワフ１世が国家を統一した。チンギス＝ハンの孫バトゥの西征では1241年のワールシュタットの戦いにポーランド＝ドイツの諸侯連合は敗れた。14世紀の（　63　）の時に王権が伸長した。

ヤゲウォ朝　リトアニア＝ポーランド王国（同君連合）は1386年～ 1572年にクラクフを首都とした。1410年のタンネンベルクの戦いでドイツ騎士団を撃破した。クラクフ大学のコペルニクスは地動説を唱えた。

ヤゲウォ朝の断絶後は貴族による選挙王政だったので権力が分散し求心力が働かず，18世紀のロシア・プロイセン・オーストリアによる３度にわたるポーランド分割（1772年・1793年・1795年）を被り，ポーランドは消滅した。分割に３度とも関与したのがロシアのエカチェリーナ２世。第１次はプロイセンがフリードリヒ２世，オーストリアがヨーゼフ２世。第２次が要注意。フランス革命中だからオーストリアだけ不参加。その時ポーランド人（　64　）が活躍した。

フランス革命から登場したナポレオン１世がワルシャワ大公国（1807 ～ 14）を

建てたがウィーン議定書で消滅した。ロシア皇帝が王を兼任するポーランド立憲王国となったが，パリ七月革命の影響でポーランド人が反乱を起こしたが，ロシアに鎮圧され直轄領になった(1832)。この件をモチーフにシューベルトがピアノ曲「革命」をつくった。じゃがいもの大凶作とパリ二月革命の影響でクラクフ蜂起(1846)ポズナニ蜂起(1848)が起きたがロシア軍によって鎮圧された。

ロシア皇帝アレクサンドル２世の農奴解放令(1861)に刺激され1863年に革命的大農民反乱となったが鎮圧され，翌年農奴制支配は廃止された。

第一次世界大戦終了時にピウスツキがポーランド共和国として独立宣言。ヴェルサイユ条約ではポーランド回廊とシュレジエンの一部を割譲させた。ピウスツキはポーランド＝ソヴィエト戦争に勝利し独裁的内閣をつくり独裁憲法を制定した。

戦後は1945年に統一政府成立。1952年に人民共和国。首都ワルシャワ。

スターリン批判の1956年，スターリン的抑圧の廃止を求める反ソ暴動がポズナニで起きた。ゴムウカがソ連の軍事介入を拒否しつつ暴動を自主的に収拾した。

1970 ～ 80年のギエレク政権の高度経済成長路線は失敗した。1980年グダンスク(旧ダンツィヒ)のレーニン造船所の電気工ワレサが自主管理労組(　29　)を組織した。ブレジネフ政権のソ連は怒り軍隊をポーランド国境に集結，ヤルゼルスキ政権は軍政による戒厳令で(　29　)を非合法化した。

冷戦終結への道のりはここに始まった。冷戦終結後，ワレサが大統領になった。

23 オセアニア史

オーストラリアの先住民族はアボリジニーだ。狩猟・採集民族で高度な政治組織は持っていなかった。約30万人いたのが現在は数万人にまで減少した。強制同化政策がとられていたニュージーランド，マオリ族は比較的強固な社会組織だった。タスマニアのタスマニア人は絶滅した。

オランダ人タスマンは17世紀にニュージーランド・タスマニア・フィジーを発見，オーストラリア大陸を周航した。

イギリス人クックは1770年にオーストラリア東海岸に上陸し，英領宣言したがハワイで殺害された。18世紀末にカメカメハが内戦を終結させて建てた王朝がカメハメハ王朝だ。その最後の王朝がリリウオカラニ女王で親米系市民のクーデタで1893年に退位した。

合衆国によるハワイ併合はマッキンリー大統領の時の1898年。

1788年最初のオーストラリア流刑囚780人を含む約1300人が流刑植民地として

植民を開始した。1820年代には牧羊業が発展，1850年代にはゴールドラッシュが起きた。中国人移民が増加したので1855年に中国人移民を制限した。日本人移民の増加にも危機感を感じた。1880年代からは（　65　）という排外政策がオーストラリアの特色となった。1960年代には制限は次第に撤廃され，ベトナム難民を大量に受け入れるほどになり，1973年に制限法が撤廃となった。

オーストラリア連邦が自治領になったのが1901年，ニュージーランドは1907年。世界初の女性参政権は1893年のオーストラリアだ。いずれも1931年のウェストミンスター憲章で事実上独立した。1951年にはオーストラリア・ニュージーランド・アメリカ合衆国による反共軍事同盟ＡＮＺＵＳ（太平洋安全保障条約）が結成された。

1946年以降は原爆の，1954年以降は水爆の実験をマーシャル諸島ビキニ環礁で続けたので，周辺住民は「死の灰」を浴びて被爆した。1954年日本漁船の第五福竜丸が被爆し乗組員が死傷した。これが原水爆禁止運動が高まるきっかけとなった。

原水爆禁止運動は東京都杉並の主婦の運動から世界的運動に発展，1955年には第１回大会が広島で開かれた。直前には哲学者と物理学者によるラッセル＝アインシュタイン宣言がなされ同運動に影響を与えた。1957年には同宣言に基づきカナダのパグウォッシュで科学と国際問題に関する会議を開いた。以後，科学者による核兵器禁止運動の中心組織をパグウォッシュ会議という。

24 メキシコ史とラテン＝アメリカ諸国史

ラテン＝アメリカ初の独立国，世界初の黒人共和国はフランス植民地サン＝ドマングつまり（　66　）だ。「黒いジャコバン」といわれたトゥサン＝ルヴェルチュールが指導，ナポレオンが介入したが1804年に独立宣言1806年に独立した。

ベネズエラやアルゼンチンはスペイン本国の重商主義政策への反発と安価なイギリス製品を求め自由貿易体制への移行を望んだ。1808年のナポレオン１世のスペイン侵攻を機に独立運動が始まった。

【シモン＝ボリバルとサン＝マルティン】　シモン＝ボリバルはコロンビアを転戦し亡命生活を経てベネズエラに再上陸，1819年にはベネズエラ・コロンビア（パナマを含む）・エクアドルをグラン（大）＝コロンビアとして独立させた。1830年には各々は解体した。

1816年にはラプラタ連合がアルゼンチンとして独立宣言，1825年にはイギリスの調停でブラジルとの緩衝地帯としてウルグアイが形成された。1817～18年サン＝マルティンはアンデス山脈を越えてチリを解放。スペインの南米支配の本拠

地リマ(現ペルー)を1821年に解放し，1822年にはエクアドルのグアヤキルでシモン＝ボリバルと会見し後事を託す。ボリバルは内陸部アルト＝ペルーの王党派を撃破してボリビアが独立，名称は彼の名に由来する。

【メキシコ】　メキシコのような本国スペインとの経済的結びつきの強い地域ではクリオーリョも保守的だった。1810年には下級クリオーリョのイダルゴ神父が奴隷制廃止などの急進的要求を掲げた運動を始め先住民やメスティーソが多数参加したが1811年に処刑された。1813年にはメスティーソのモレロスが奴隷制廃止，土地改革を主張して独立宣言したが1815年に処刑された。

1820年にスペイン本国でリェゴによるブルボン家への立憲革命が起き1812年自由主義憲法が復活した。この影響でメキシコも独立に傾き1821年イトゥルビデを皇帝に独立した。メキシコでは1855年に法相ファレスによる改革がなされ既得権にメスが入った。保守派やカトリック教会はナポレオン３世に支援を要請，フランス・スペイン・イギリスがメキシコ出兵，共和政府を倒しオーストリア皇帝の弟マクシミリアンを皇帝に擁立した。

しかしメキシコ民衆の反乱や疫病でフランス軍は壊滅，南北戦争を終えた合衆国の介入もありフランス軍はマクシミリアンを見捨て撤兵，皇帝は銃殺された。

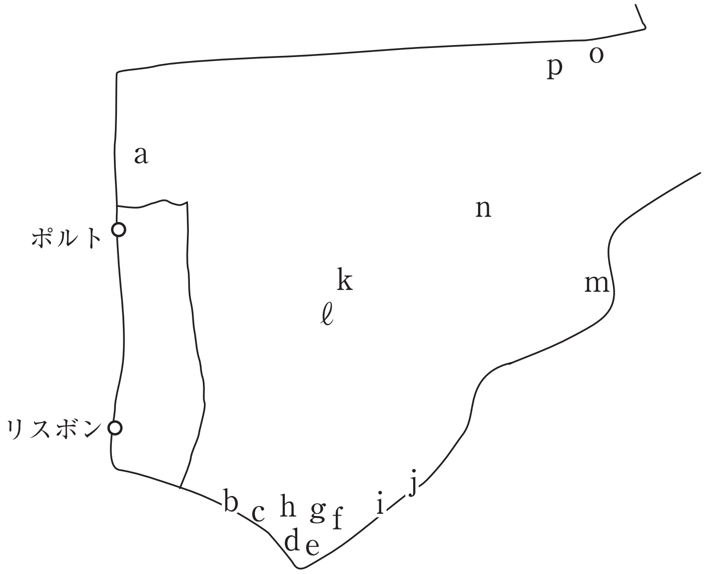
このファレスのもと対仏戦争に活躍したが後に反動化したのがディアス。彼は1910～17年のメキシコ革命で打倒されるまで独裁体制を維持した。ディアスを打倒し大統領になったのがマデロだが，土地改革に否定的でサパタ指導の農民勢力と対立したので政権は不安定でクーデタで暗殺された。

カランサはメキシコ革命に勝利し大統領に就任し1917年に，土地改革・地下資源の国有化・政教分離・社会的権利の保障などを定めた憲法を発布したが，憲法を履行せず民衆の支持を失い暗殺された。サパタはカランサ派に暗殺された。

【ブラジル】　唯一ポルトガル領だったのがブラジル。ナポレオン戦争期にイギリスがポルトガル王室をブラジルに避難させた。ナポレオン失脚後，王は帰還したが王子が1822年に皇帝に即位し独立を宣言。1889年には共和国になった。社会学の祖で実証主義哲学を体系化したのがフランスのカントだが，彼が始めた宗教が人類教。その信者が多いからブラジル国旗は地球をかたどっている。

1970年にチリで初の革命によらない社会主義政権を樹立，鉱山を国有化したのがアジェンデ。アジェンデ政権を1973年に打倒し権威主義政府を樹立，国民を弾圧したのが(　67　)。1990年代ペルーの日系人大統領がフジモリ。キューバ革命のアルゼンチン人，1967年ボリビアで死亡したのがゲバラ。戦後アルゼンチンで国家社会主義政策，妻がエビータと言えばペロン。

☆スペインの地図問題



キリスト教３大巡礼地の１つ……………………… a　サンチャゴ＝デ＝コンポステラ

コロンブス第１回航海に出航……………………… b　パロス

　　　　　　　２・４〃　フェニキア人が建設 … c　カディス

1906年列国会議…………………………………… d　アルヘシラス

英領………………………………………………… e　ジブラルタル

アルハンブラ宮殿………………………………… f　グラナダ

後ウマイヤ朝の都………………………………… g　コルドバ

マゼラン出航，アンダルシアの中心…………… h　セビリャ

西ゴート王国の都………………………………… ℓ　トレド

1808年５月３日の処刑…………………………… k　マドリード

サグラダ＝ファミリア……………………………m　バルセロナ

1529年の条約……………………………………… n　サラゴサ

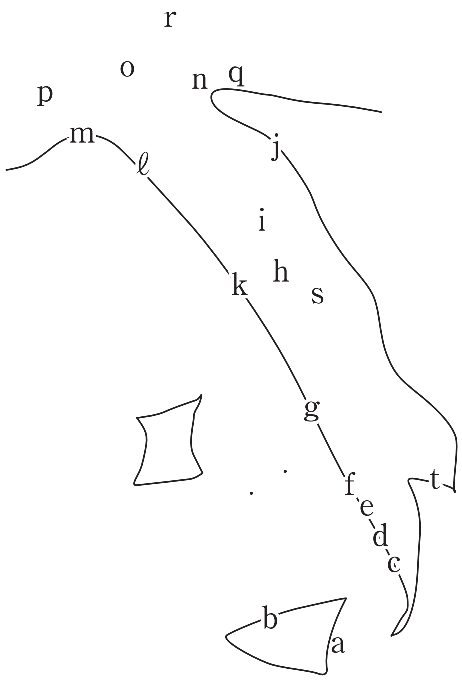
洞穴絵画…………………………………………… p　アルタミラ

ピカソの絵画……………………………………… o　ゲルニカ

フェニキア人の都市，ピカソ生誕……………… i　マラガ

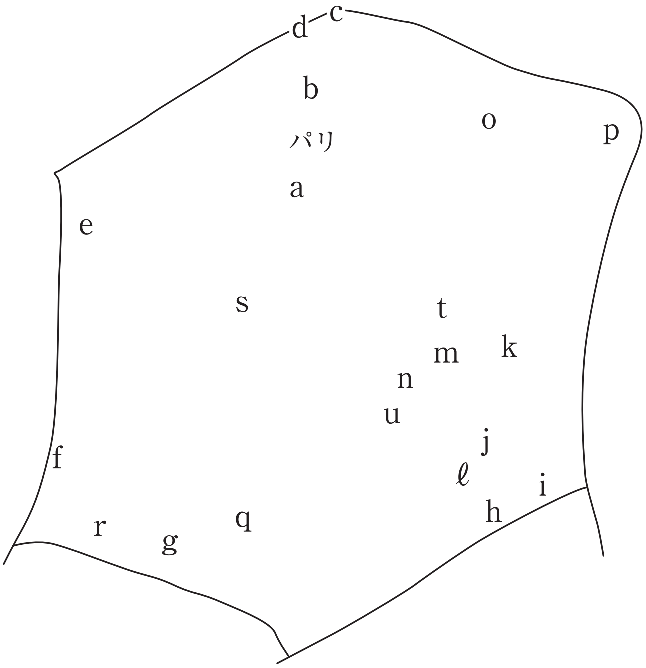
ハンニバル出撃…………………………………… j　カルタヘナ（カルタゴ＝ノヴァ）

☆イタリアの地図問題



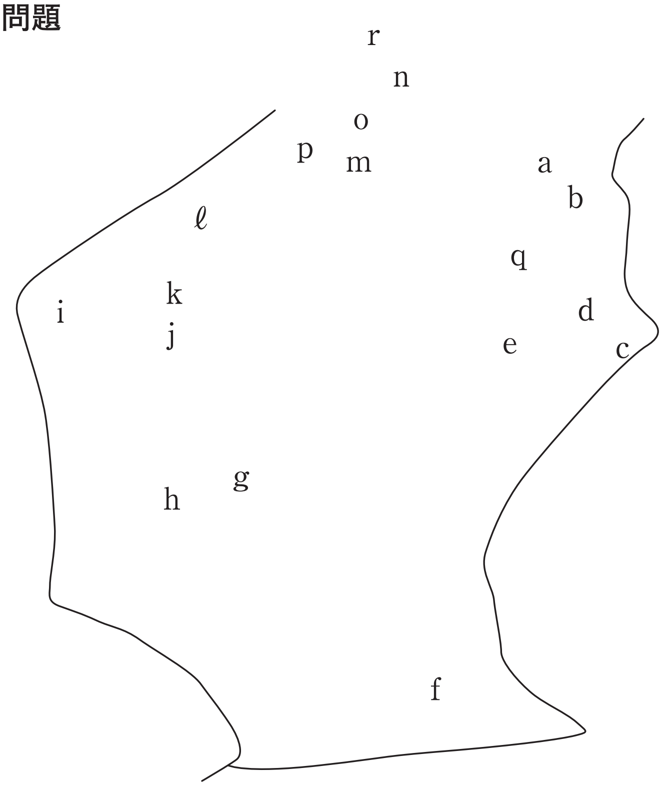
B.C.272半島統一	t	タレントゥム
フランチェスコ修道会	s	アッシジ
プリニウス死亡	e	ポンペイ
独ソ相互承認(1922)	l	ラパロ
アルキメデス死亡	a	シラクサ
フリードリヒ２世生誕	b	パレルモ
医学の大学	c	サレルノ
４大海洋都市国家の１つ(中世ヨーロッパ)	d	アマルフィ
〃　ロマネスク聖堂	k	ピサ
〃　コロンブス生誕	m	ジェノヴァ
〃　サン＝マルコ聖堂	n	ヴェネツィア
チョンピの乱(1378)	h	フィレンツェ
イタリア王国の都(1861)	p	トリノ
ラテラノ条約(1929)，アナーニ事件(1303)	g	ローマ
11C法学の大学	i	ボローニャ
ギベリンの大学	f	ナポリ
ピピンの寄進地	j	ラヴェンナ
未回収のイタリア，鉄のカーテン演説	q	トリエステ
1545～1563年の公会議	r	トリエント
ロンバルディア同盟	o	ミラノ

☆フランスの地図問題



ジャンヌ＝ダルクが奪還…………………………………… s　オルレアン
ヨーロッパ人権裁判所……………………………………… p　ストラスブール
ゴシックの聖堂……………………………………………… a　シャルトル
ゴシックの聖堂，第２回対仏大同盟解消………………… b　アミアン
ギュイエンヌ地方，ワイン………………………………… f　ボルドー
1598年の王令………………………………………………… e　ナント
西ゴートの都トロサ………………………………………… g　トゥールーズ
水道橋………………………………………………………… l　ガール
ギリシア人が建設，青年イタリア(1831)………………… h　マルセイユ
サヴォイア家が割譲………………………………………… i　ニース
910年の修道院は最古のロマネスク ……………………… t　クリュニー
1940年のペタンの政権……………………………………… n　ヴィシー
産業革命の中心，綿織物…………………………………… m　リヨン
1309～1377年の教皇庁 …………………………………… j　アヴィニョン
1940年 英仏軍撤退 ………………………………………… c　ダンケルク
1453～1559年の間イギリス領に ………………………… d　カレー
クローヴィスが塗油された………………………………… o　ランス
カタリ派拠点………………………………………………… q　アルビ
洞穴絵画……………………………………………………… r　ラスコー
第１回十字軍………………………………………………… u　クレルモン

☆ドイツの地図問題



1878年の会議	a	ベルリン
サンスーシ宮殿	b	ポツダム
1923年の一揆 1938年の「宥和」	f	ミュンヘン
1848年の国民議会	g	フランクフルト
ザクセンの中心，1945年の空爆	c	ドレスデン
1919年の憲法	e	ヴァイマル
1813年の戦い	d	ライプツィヒ
ルターの宗教改革	q	ヴィッテンベルク
ハンザの女王	n	リューベック
ドイツ第２の都市，ハンザ	o	ハンブルク
ハンザ都市	p	ブレーメン
オスナブリュックとともにウェストファリア条約	l	ミュンスター
カールがアルクインを招く	i	アーヘン
グーテンベルクの活版印刷ラテン語聖書	h	マインツ
1714年のイギリス王室の故地	m	ハノーヴァー
ゴシックの大聖堂，七選帝侯	k	ケルン
ベートヴェン生誕，西ドイツの首都	j	ボン
ドイツ革命のきっかけ，水兵の反乱	r	キール

テキスト解答

〈空欄の解答〉

1．シェイエス
2．ヴァルミーの戦い
3．ヴァンデー県の農民
4．バブーフ
5．トラファルガーの海戦
6．ワーテルローの戦い
7．ドイツ連邦
8．カルボナリ
9．アルジェリア
10. ガリバルディ
11. シチリアの晩鐘
12. 北ドイツ連邦
13. 社会主義者鎮圧法
14. ノーフォーク農法
15. ニューコメン
16. ダーウィン
17. フェビアン協会
18. シン＝フェイン党
19. アルバニア人
20. 西洋の没落
21. ローザ＝ルクセンブルク
22. ミュンヘン一揆
23. 全権委任法
24. アインシュタイン
25. ベルリン＝ローマ枢軸
26. ノモンハン事件
27. 武器貸与法
28. ギリシア
29. 連帯
30. チェルノブイリ
31. ストルイピン
32. トロツキー
33. ソヴィエト社会主義共和国連邦
34. コミンフォルム
35. ソルジェニーツィン
36. チェルノブイリ
37. 価格革命
38. ハーバード
39. ボストン茶会事件
40. フィラデルフィア
41. 黒人，インディアン
42. マニフェスト＝デスティニー
43. ジェファソン＝デヴィス
44. 大陸横断鉄道

45. ジョン＝ヘイ
46. 無制限潜水艦作戦
47. サッコ＝ヴァンゼッティ事件
48. ワグナー法
49. 汪兆銘
50. スタインベック
51. バス＝ボイコット事件
52. 偉大な社会
53. 1969
54. プラザ合意
55. CTBT（包括的核実験禁止条約）
56. ベバリッジ報告
57. ゲットー
58. ジャン＝ジョレス
59. サルトル
60. マサリク
61. ドプチェク
62. チャウシェスク
63. カジミェシュ（カシミール）大王
64. コシューシコ
65. 白豪主義
66. ハイチ
67. ピノチェト

〈各ページごとの下線訂正問題の解答〉

Ｐ２　ホッブズ　→　ルソー

Ｐ３　シラー　→　ゲーテ

Ｐ４　セザンヌ　→　ダヴィド

Ｐ５　ドミニカ　→　ハイチ

Ｐ６　演繹法　→　弁証法

Ｐ７　オランダ　→　フランス

Ｐ８　バクーニン　→　ルイ＝ブラン

Ｐ９　モデルニスモ　→　リソルジメント

P10　ヴェルサイユ条約　→　サン＝ジェルマン条約

P11　1830　→　1834

P12　ギリシア正教徒　→　カトリック教徒

P13　社会革命党　→　社会民主党

P14　反対した　→　賛成した（リカード）

P15　比例選挙区　→　廃敗選挙区

P16　福祉主義　→　マルクス主義

P17　コミンテルン　→　コミンフォルム

P18　ニュルンベルク裁判　→　旧ユーゴ国際戦犯法廷

P19　ルール地方　→　ザール地方

P20　イタリアのロカルノ　→　スイスのロカルノ

P21　中央党　→　共産党

P22　スロヴェニア　→　アルバニア

P23　ポンピドー　→　マルロー

P24　バッジオ政権　→　バドリオ政権

P25

1　ヤルタ
2　ベルリン封鎖
3　チェコスロヴァキア
4　NATO（北大西洋条約機構）
5　ワルシャワ条約機構
6　雪どけ
7　朝鮮
8　ドイツ
9　ベルリンの壁
10　キューバ
11　部分的核実験停止条約
12　核拡散防止条約
13　デタント（緊張緩和）
14　ソ連，アフガニスタン
15　ゴルバチョフ
16　中距離核戦力全廃条約
17　ベルリンの壁
18　マルタ
19　ブレジネフ
20　ゴルバチョフ
21　新思考

P26　行政改革　→　通貨改革
P27　1977　→　1979
P28　プーチン　→　エリツィン
P29「共産党宣言」→「四月テーゼ」
P30　ジェントリ　→　クラーク
P31　イギリス　→　イタリア
P32　四つの自由宣言　→　新ベオグラード宣言
P33　トルコ共和国　→　ウクライナ共和国
P34　英国国教徒　→　ピューリタン(カルヴァン派)
P35　ルイ13世　→　アンリ4世
P36　社会権　→　自然権
P37　国際連合　→　国際連盟
P38　アパッチ族　→　チェロキー族
P39　マスケット銃　→　ライフル銃
P40　1876　→　1867
P41　フェートン号事件　→　ルシタニア号事件
P42　遼東半島　→　山東半島
P43　マルクス　→　ケインズ
P44　人民憲章　→　大西洋憲章
P45　ムバラク政権　→　モサデグ政権
P46　カリフォルニア　→　テキサス
P47　ジュネーヴ協定　→　パリ協定
P48　グラナダ　→　グレナダ
P49　ベッカー高原　→　ゴラン高原
P50　ベッケンバウアー　→　アデナウアー
P51　自然主義　→　写実主義
P52　1961　→　1960
P53　ゴッホ　→　ゴーガン
P54　ジャスミン革命　→　ビロード革命
P55　トルコ　→　ソ連
P56　ロシア帝国　→　オスマン帝国
P57　シューベルト　→　ショパン
P58　オーストラリア　→　ニュージーランド

P59　カント　→　コント

参考資料

〈アメリカ歴代大統領〉

1．ワシントン
2．アダムズ
3．トマス＝ジェファソン　ミシシッピ川以西のルイジアナ買収
4．マディソン　　米英戦争
5．モンロー　　モンロー宣言(教書)
7．ジャクソン　　ジャクソンニアン＝デモクラシー
11. ポーク　　テキサス，カリフォルニア併合
13. フィルモア　　ペリー浦賀に来航

民主党	共和党
	16. リンカン　南北戦争
17. A・ジョンソン　アラスカ買収	
	25. マッキンリー　米西戦争
	26. セオドア＝ローズヴェルト「棍棒外交」日露戦争，ポーツマス条約を仲介
	27. タフト「ドル外交」
28. ウィルソン「ニューフリーダム」第一次世界大戦，十四カ条「宣教師外交」	
	29. ハーディング「常態への復帰」ワシントン会議
	30. クーリッジ　ドーズ案，パリ不戦条約
	31. フーヴァー　世界恐慌
32. フランクリン＝ローズヴェルト「ニューディール」「善隣外交」第二次世界大戦	
33. トルーマン「フェアディール」「トルーマン＝ドクトリン」原爆投下，冷戦開始	
	34. アイゼンハワー「巻き返し」
35. ケネディ「ニューフロンティア」「進歩のための同盟」	
36. ジョンソン「偉大な社会(計画)」ベトナム戦争	
	37. ニクソン「法と秩序」ベトナム戦争
	38. フォード
39. カーター「人権外交」	

40. レーガン「小さな政府」「強いアメリカ」
41. ブッシュ　湾岸戦争
42. クリントン　オスロ合意
43. ブッシュ　2001.9.11同時多発テロ，イラク戦争
44. オバマ
45. トランプ

民主党　リベラル　**計画**（大きい政府）　**競争**（小さい政府）　**保守**　**共和党**
税金大，役人多，規制大　ケインズ的　革新主義　ハイエク的　税金小，役人少，規制小

〈核軍縮の歴史〉

1946～　ビキニ原水爆実験（アメリカが中部太平洋マーシャル諸島で）
1950　ストックホルム（スウェーデン）＝アピール
　　5億を超える署名
1954　第五福竜丸事件　ビキニ水爆実験で被災のちに死亡
1955　ラッセル・アインシュタイン宣言
　　警告　　東京都杉並区の主婦の運動から「原水爆禁止運動」
1955　第一回原水爆禁止世界大会（広島）～1962
1957　ゲッティンゲン宣言　西独の原子科学者　核実験・開発・研究の拒絶発表
1957　パグウォッシュ（カナダ）会議（科学者による，以後各地で開催）
　　核兵器禁止運動の中心組織
1963　（1962のキューバ危機の翌年）部分的核実験禁止条約　米・英・ソ
1968　（1965～ベトナム戦争中）1970発効　核拡散防止条約（NPT）米・英・ソ
　　IAEA国際原子力機関による査察
1987　INF（中距離核戦力）全廃条約　1988発効
　　レーガンとゴルバチョフ
1996　包括的核実験禁止条約（CTBT）
　　国連総会で採択，しかし発効せず

SALT I	（1972）	戦略兵器制限交渉「恐怖の均衡」理論
SALT II	（1979）	〃　（第二次）しかしソ連がアフガニスタン侵攻
START I	（1982～91）	戦略兵器削減条約
START II	（1993）	〃　（第二次）ブッシュとエリツィン

ヨーロッパ統合の歩み

1951年	ヨーロッパ石炭鉄鋼共同体(ECSC) （仏・西独・イタリア・ベネルクス3国） ヨーロッパ経済共同体(EEC) ヨーロッパ原子力共同体(EURATOM)
67	ヨーロッパ共同体(EC)　（ECSCの加盟国と同じ）
73	─英・デンマーク・アイルランド加盟
81	─ギリシア加盟
86	─スペイン・ポルトガル加盟
92	（マーストリヒト条約調印）
93	ヨーロッパ連合(EU)
95	─オーストリア・スウェーデン・フィンランド加盟
2002	（ユーロ流通開始）
2004	─キプロス・チェコ・エストニア・ハンガリー・ラトビア・リトアニア・マルタ・ポーランド・スロバキア・スロベニア加盟
2007	─ブルガリア・ルーマニア加盟
2013	─クロアティア加盟

Ⓒ RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。